# 史跡和歌山城整備計画報告書 (平成 28 年度改訂版)

平成 29 年 3 月

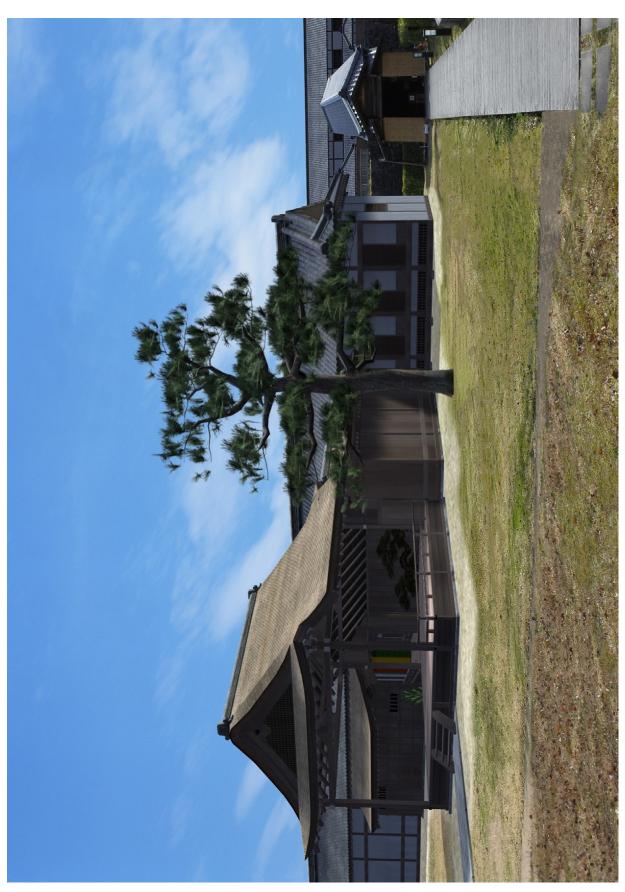
和歌山市産業まちづくり局観光国際部 和歌山城整備企画課



史跡和歌山城整備イメージ図(中期~長期を想定)



史跡和歌山城 二の丸西部・西の丸整備イメージ図



史跡和歌山城 西の丸 能舞台整備イメージ図

# 例 言

- 1. 本書は、和歌山県和歌山市に所在する史跡和歌山城に係る整備計画の報告書である。
- 2. 本計画の策定は、和歌山市産業まちづくり局観光国際部和歌山城整備企画課(以下、和歌山城整備企画課)が平成28年度に実施した。
- 3. 本計画の策定にあたり、史跡和歌山城保存整備委員会をはじめ、文化庁記念物課、和 歌山県教育委員会文化遺産課、和歌山市教育委員会文化振興課等、関係各位の指導助言 を賜った。
- 4. 本書の作成は、和歌山城整備企画課が担当した。
- 5. 本計画の策定に携わった関係者は、以下のとおりである。

(敬称略、順不同)

#### 【史跡和歌山城保存整備委員会】

田中 哲雄 姫路市日本城郭研究センター名誉館長

藤本 清二郎 和歌山大学名誉教授

北垣 聰一郎 石川県金沢城調査研究所名誉所長

平井 聖 昭和女子大学特任教授

八木 清勝 和歌山市文化財保護委員会委員 原 一起 和歌山市教育委員会 教育長

坂本 安廣 産業まちづくり局長

中西 歩 観光国際部長

# 【指導助言者】

五島 昌也 文化庁文化財部記念物課調査官

髙橋 智也 和歌山県教育委員会文化遺産課主査

前田 敬彦 和歌山市教育委員会文化振興課文化財班長

益田 雅司 和歌山市教育委員会文化振興課文化財班学芸員

大木 要 和歌山市教育委員会文化振興課文化財班学芸員

北野 隆亮 公益財団法人和歌山市文化スポーツ振興財団埋蔵文化財センター長

# 【和歌山城整備企画課】

山路 都子 課長

上野山 茂 副課長

吉村 隆良 史跡整備班長

森本 延幸 企画管理班長

田端 康宏 史跡整備班企画員

工藤 直士 企画管理班事務主査

新谷 和之 史跡整備班学芸員

# 目 次

# 例 言

第1章 整備計画の前提 I. 史跡和歌山城整備計画の目的 ····································
Ⅱ. 整備計画の範囲と計画作業の手順
1. 計画地の概要・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・
1) 計画対象地の位置 2) 計画対象範囲 3) 法規制、指定等現況
4) 呼称の設定
2. 計画作業の体制と作業手順・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・
1) 体制 2) 作業手順
Ⅲ.史跡和歌山城の現況と整備課題
1. 自然条件概要····································
1) 和歌山市の気候・気象 2) 和歌山城及びその周辺の土質・土壌
3) 和歌山城内の植物
2. 社会人文条件概要······
1) 人口・産業等 2) 土地利用状況 3) 道路・交通状況
4) 観光レクリエーション 5) 和歌山市の公園緑地
3. 和歌山城の歴史概要・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 20
1)和歌山城の成り立ち 2)幕末期の和歌山城 3)廃藩以降の歩み
4. 遺構整備の状況・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・27
1)発掘調査 2) 建造物の復元整備 3) 石垣の整備
5. 公園施設整備の状況・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・32
6. 景観調査―天守郭を中心とした「見え」の解析・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・
1) 近景の現況 2) 中~遠景の現況 3) 城内景観の概況
7. 整備課題の抽出・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・
1) 遺構整備の主な課題 2) 公園施設整備の主な課題
3) 景観整備の主な課題

第2章	章 整備計画	
I.	整備目標	49
Ι.	ゾーニング	50
Ш.	遺構整備計画	
1	. 山上の象徴性の向上・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	51
	1) 天守閣の整備 2) 本丸の整備	
2	2. 麓の見どころ整備・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	52
	1) 二の丸の整備 2) 西の丸の整備 3) 北辺櫓群の整備	
3	3. 縄張の明確化・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	59
	1)吹上口の整備 2) 扇の芝の整備 3) 堀の整備	
4	l. 遺構・既存施設の整備······	61
	1) 石垣・雁木の保全整備 2) 既存建築物の保全整備	
	3) 復元建築物の維持管理	
IV.	公園施設整備計画	
1	教養施設 · · · · · · · · · · · · · · · · · · ·	62
2	2. 便益施設 · · · · · · · · · · · · · · · · · · ·	62
3	3. 管理施設 · · · · · · · · · · · · · · · · · · ·	63
4	1. 多目的広場 · · · · · · · · · · · · · · · · · · ·	63
٧.	景観整備計画・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	64
VI.	動線整備計画	65
第3章	章 今後の見通し	
Ι.	段階整備計画	67
П.	整備費概算 · · · · · · · · · · · · · · · · · · ·	70
Ⅲ.	今後の課題	74

第1章 整備計画の前提

# I. 史跡和歌山城整備計画の目的

史跡和歌山城は、和歌山市の歴史を語るシンボル的存在であり、郷土の、また日本の歴史・文化を学ぶことのできるかけがえのない文化遺産である。また、国内外の多くの観光客を迎えることが可能な観光拠点であり、市街の緑地公園として市民の憩いの場ともなっている。

和歌山市は、史跡和歌山城の文化財としての重要性を認識し、将来にわたる適切な保存と有効な活用を図るため、平成4年度に史跡和歌山城保存管理計画を策定した。史跡和歌山城整備計画(以下、「現行計画」とする。)は、ここで示された保存と活用の基本方針に基づき、平成6年度に策定された。現行計画は、史跡和歌山城の全体的な歴史環境を保全することで、その歴史的・文化的シンボル性を高め、人々が歴史・文化に身近に触れ、かつ学べる環境を整えることを目的に掲げている。また、人々に親しまれる公園として整備・活用を図り、今後の和歌山城にふさわしい整備のあり方を総合的に検討した計画となっている。

この計画に基づいて、約20年にわたり史跡和歌山城の整備を進めてきた。その間、発掘調査等の学術調査が進展し、和歌山城の歴史や構造について新たな事実が次々と浮かび上がってきている。これらの知見を踏まえて、和歌山城の歴史的な位置づけや魅力・見どころを再確認し、史跡整備の手法や優先順位を検討する必要がある。また、和歌山城を取り巻く情勢は大きく変化し、来城者のニーズも多様化しつつある。特に、交通網の整備に伴い国内外の観光客が増加しており、多様な観光客を迎え入れる仕組みづくりが課題となっている。

本計画は、こうした現状を踏まえ、史跡としての本質的価値を保ちながら、都市公園・ 観光地としての側面も考慮し、史跡和歌山城の魅力を総合的に高めることを目的に策定す るものである。

# Ⅱ.整備計画の範囲と計画作業の手順

#### 1. 計画地の概要

# 1)計画対象地の位置

和歌山市は、東経 135 度 19 分から 135 度 0 分、北緯 34 度 9 分から 34 度 19 分の間に 位置しており、市域の面積は 208.84 kmを有している(平成 27 年 4 月 1 日現在)。

和歌山平野は、中央構造線に沿う地溝性の低地を、紀ノ川が埋設した沖積平野で、和歌山市街地はその河口部に発達している。

史跡和歌山城は市街地のほぼ中央に位置しており、城の北側を東西に県道和歌山停車場線(通称「けやき通り」)、西側を国道 42 号、南側を県道和歌山野上線(通称「三年坂

通り」)、東側を市道本町和歌浦線といったいずれも主要幹線道路が通る。城の中央部から南側へかけて虎伏山丘陵が延びており、平坦な市街地のなかで小高い丘を形成している。



■図-1 位置図

# 2)計画対象範囲

本計画の対象範囲は、史跡指定範囲のうちから、けやき通り並びに国道 42 号、三年坂通りの道路敷を除いた範囲(ほぼ都市計画公園の範囲)及び扇の芝(史跡指定範囲外)と呼称される城南西の三角地である。なお、扇の芝は国史跡への追加指定を目指す。

※ 岡公園は、現行計画における「和歌山城に関連の深い近隣公園」としての位置づけを踏襲し、今後も適切に保全・活用を図る。

# 3) 法規制、指定等現況

- ①史跡指定(図 3 参照)
- ②名勝指定(図 3 参照)
- ③周知の埋蔵文化財包蔵地(図 4 参照)
- ④都市計画用途地区、地域(図-5参照)

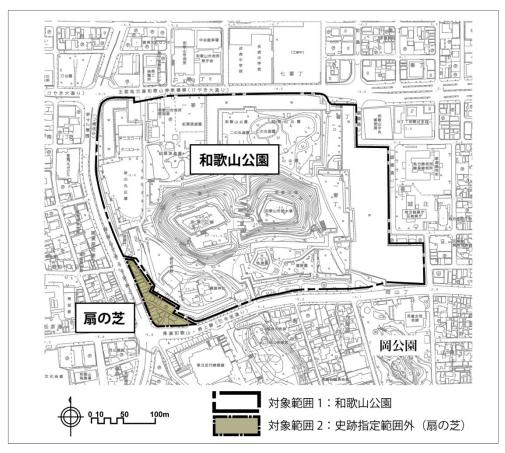
- 都市公園緑地
- ·第1種低層住居専用地域
- ·第1種風致地区

# ⑤条例等

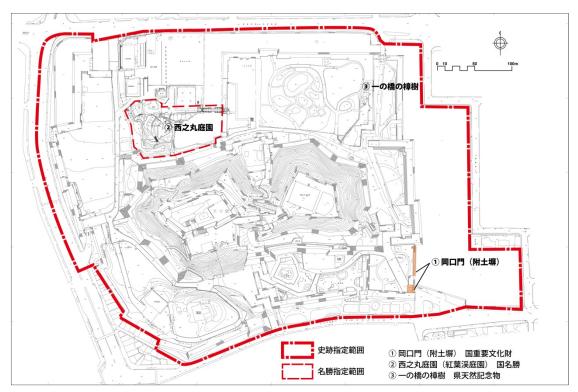
- ・和歌山市都市公園条例(昭和33年)
- ・和歌山市文化財保護条例(昭和41年)
- ・和歌山市美化推進及び美観の保護に関する条例(平成4年)
- ・災害時における広域避難場所(『和歌山市地域防災計画』平成27年)
- ·和歌山市屋外広告物条例(平成8年)
- ·和歌山市景観条例(平成23年)

# ⑥関連上位計画

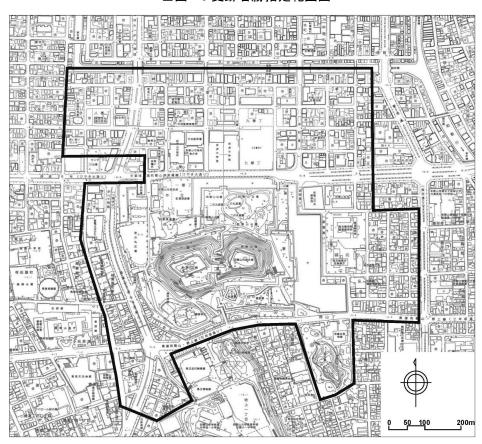
- ・第5次和歌山市長期総合計画(基本構想)(平成28年)
- ・和歌山市景観計画(平成23年)
- ・和歌山市景観ガイドラインー和歌山城周辺景観重点地区- (平成25年)
- · 国際広域観光拠点都市和歌山市地域再生計画(平成27年)
- ・和歌山市人口ビジョン (平成27年)



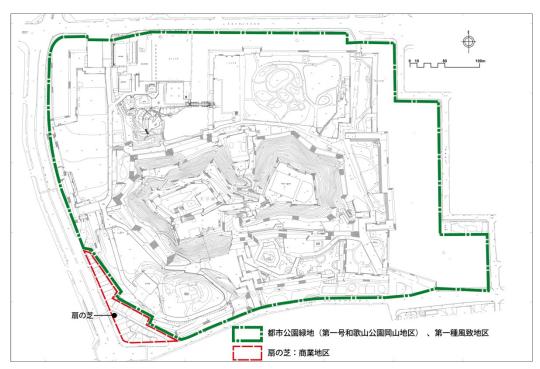
■図-2 計画対象区域図



■図-3 史跡名勝指定範囲図



■図-4 周知の埋蔵文化財包蔵地

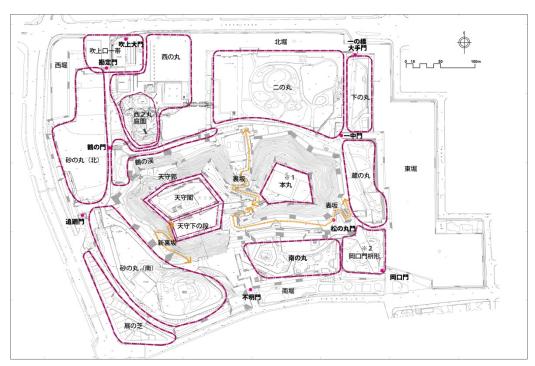


■図-5 都市計画用途地域図(和歌山市都市計画図 H28.12 より作成)

# 4) 呼称の設定

城内の曲輪や建造物等の名称は、時代によって変化する場合がある。また、定着した 呼称が見当たらないものもある。

本報告書においては、便宜的に以下のように呼称を統一して使用する。



■図-6 呼称の設定

# 2. 計画作業の体制と作業手順

# 1)体制

和歌山城整備企画課は、専門的な調査や素案の作成をコンサルタントに委託し、計画の 策定にあたった。さらに、計画の概要や整備の方向性について史跡和歌山城保存整備委員 会に諮り、指導・助言を賜った。これらの検討内容を踏まえて、計画のとりまとめを和歌 山城整備企画課が行った。



# 2) 作業手順

平成27年度は、史跡和歌山城の現況を産業・観光・交通等の観点から整理し、これまでの学術調査の成果を踏まえて和歌山城の特質・魅力を再確認した。また、現行計画を策定した後に実施した整備事業の成果を把握した上で、現行計画の内容を項目別に検証した。これを踏まえて、新たな計画策定の方針を検討した。

平成28年度は、史跡・都市公園・観光地の側面を併せ持つ史跡和歌山城の特性を踏まえた上で、整備の指針やゾーニングを検討し、整備を行うべき事項を整理した。さらに、主要な整備事業について概算事業費を算出し、史跡の保全・活用を意識して優先順位を検討し、整備のスケジュールを設定した。これらの作業を踏まえて、計画のとりまとめを行った。

計画策定に係る史跡和歌山城保存整備委員会は、次のように開催した。

名称	開催日	内 容
第 32 回	平成 27 年 6 月 5 日	史跡和歌山城整備計画の策定に着手することを報
		告し、作業手順について報告
第 33 回	平成 28 年 1 月 27 日	現行の史跡和歌山城整備計画と整備事業の実施状
		況を検証し、新たな計画策定における基本方針を検
		討
第 34 回	平成 28 年 12 月 21 日	整備の方向性を説明し、事業内容、スケジュール等
		について検討
第 35 回	平成 29 年 1 月 26 日	計画素案の検討

# Ⅲ. 史跡和歌山城の現況と整備課題

# 1. 自然条件概要

# 1) 和歌山市の気候・気象

平成27年の平均気温は17.2℃であり、降水量は年間1,537.5mm、日照時間は1,964.8h、 平均湿度は69%と比較的低く、四季を通じて温暖な気候に恵まれている。

(平成27年度 和歌山市 気温・湿度・降水量及び日照時間より)

#### 2) 和歌山城及びその周辺の土質・土壌

和歌山市の市街地は主に紀ノ川河口に形成された沖積低地である。和歌山城はその中にあって結晶片岩からなる標高 48.9m の山地を中心に構成されている。城の西から南部にかけての一帯には砂堆が分布している。従って、城内の雨水なども地下浸透している箇所が多いと見られる。

# 3)和歌山城内の植物

和歌山城を形成する虎伏山の斜面地に広がる樹林は古くから生育してきた樹木が多い。 現在、自然遷移が進み、当地での極相に近い暖帯林となっており、学術的にも存在意義 が大きく、市のシンボルとしてもふさわしい樹林地を形成している。したがって緑の資 源としてその保全を検討する必要がある。

石垣上には明治以後の植樹および天然樹が多くみられるが、石垣沿いの樹木は風圧に よる揺れなどで石垣に対して悪影響を与えているとみられる。

修景樹木としてソメイヨシノが城内に多く植樹されている。過密になった部分も多く、 城の遺構を隠し、城本来の空間の意味合いを阻害している部分もみられる。

また、外来種ではワシントンヤシ、カナリーヤシ、トウカエデ、アメリカデイゴ等が存し、その他ヒマラヤスギ、サンゴジュ等とともに城の歴史的景観に対しては調和しにくい植物といえる。

(詳細は『史跡和歌山城保存管理計画書』を参照)

# 2. 社会人文条件概要

# 1)人口・産業等

# (1)人口動向

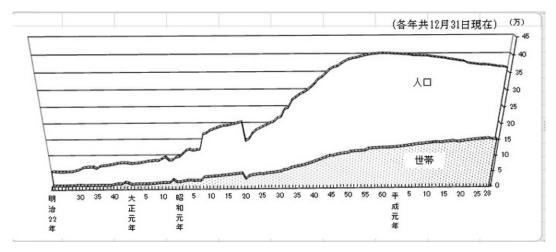
和歌山市の人口は、昭和55~60年頃をピークに減少している。平成28年12月末の和歌山市の人口は約36万人であり、計画策定時の約40万人から約4万人減少している。世帯数は、計画策定時より増加を続けてきたが、平成26年をピークに減少に転じている。

人口・世帯数・面積の推移

(各年 12 月 31 日現在)

年 次	<b>云 4</b> 束 /1 , 2)	世帯数 人 口 (人)			()
年 次	面 積(k m²)	世帝级	総数	男	女
平成5年	208. 65	137, 534	395, 882	188, 363	207, 519
平成6年	209. 11	139, 268	395, 855	188, 491	207, 364
平成7年	209. 23	139, 970	393, 810	187, 629	206, 181
平成8年	209. 33	141, 299	392, 498	186, 804	205, 694
平成9年	209. 34	142, 462	391, 192	186, 025	205, 167
平成10年	209. 42	143, 762	389, 809	185, 326	204, 483
平成11年	209. 76	145, 180	388, 597	184, 634	203, 963
平成12年	210. 23	143, 846	386, 286	183, 151	203, 135
平成13年	"	144, 869	385, 002	182, 243	202, 759
平成14年	210. 24	146, 157	383, 420	181, 322	202, 098
平成15年	<i>II</i>	147, 248	381, 539	180, 299	201, 240
平成16年	"	148, 594	380, 216	179, 657	200, 559
平成17年	"	145, 634	375, 287	176, 643	198, 644
平成18年	II	147, 029	373, 663	175, 713	197, 950
平成19年	II	148, 561	372, 275	174, 863	197, 412
平成20年	210. 25	149, 923	371, 001	174, 147	196, 854
平成21年	II	151, 167	370, 014	173, 550	196, 464
平成22年	II	152, 693	370, 101	173, 951	196, 150
平成23年	"	153, 606	368, 894	173, 137	195, 757
平成24年	II	154, 467	367, 407	172, 410	194, 997
平成25年	"	155, 465	365, 910	171, 756	194, 154
平成26年	210. 31	156, 194	364, 097	170, 870	193, 227
平成27年	208. 84	153, 097	363, 854	171, 078	192, 776
平成28年	11	153, 594	361, 578	169, 968	191, 610

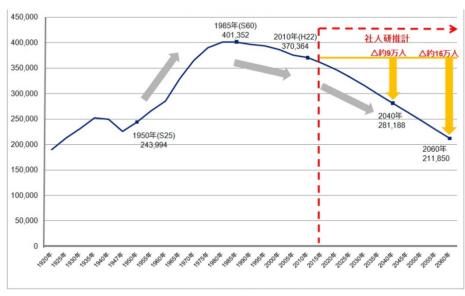
(和歌山市ホームページ:人口・世帯数)



和歌山市の人口及び世帯数の推移(和歌山市公式サイトより)

また、和歌山市人口ビジョン(平成27年10月)では、国勢調査による総人口の推移・ 推計として以下が公表されている。

- ○和歌山市の人口は、高度経済成長期の1950年(昭和25年)代から急増し、1985年(昭和60年)に1950年243,994人の約1.6倍以上、401,352人となり、人口のピークを迎えている。
- ○1985年をピークに、本市所在の大企業の規模縮小などと時期を同じくして人口減少に 転じ、その後も人口は減少を続け、2010年(平成22年)には370,364人となっている。
- ○社人研(国立社会保障・人口問題研究所)の推計に準拠した試算では、このまま何も人口減少対策をとらなければ、2010年と比べて2040年(平成52年)には281,188人と約9万人、さらに、2060年(平成72年)には211,850人と約16万人の減少が見込まれている。
- ○2010年までと比較して、今後は人口減少のスピードが速まる可能性がある。



※出所 国勢調査(1920年~2010年:総務省)
社人研推計に準拠した試算(2015年~2060年:和歌山市)

総人口の推移、推計

# (2) 産業動向

和歌山市では全国平均を上回る水準での人口減少が続いており、高齢者人口比も高くなっている。 2040 年には生産年齢人口が現在の 3 分の 2 (210,022 人 $\rightarrow$ 148,382 人) まで減少すると予測されている。

# 国勢調査就業人口構成の推移

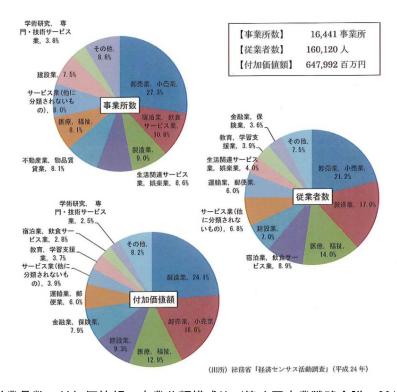
	平成2年度	平成 22 年度
総数	184, 415 人	162,925 人
	(うち分類不能 2, 145 人)	(うち分類不能 9, 490 人)
第1次産業	5,788人 (3.5%)	3,201 人 (2.1%)
第2次産業	58,874 人(32.0%)	37, 197 人(24. 2%)
第3次産業	117,608 人 (64.5%)	113,037 人 (73.7%)

国勢調査就業人口構成の推移からみると、計画策定時に予想されていた通り第3次産業の増加がより顕著に認められる結果となった。

しかしながら、和歌山市の産業特性として、製造業(第2次産業)における付加価値額が全国平均の19.9%に対し24.1%と上回っており、市の地域経済の中心を担っている。

なお、事業所数・従業者数・付加価値額を産業別に比較すると、以下の事実がわかる。

- ・事業所数・従業者数では「卸売業、小売業」の占める割合が最も高くなっている。
- ・付加価値額では「製造業」の占める割合が最も高くなっている。
- ・従業者数・付加価値額ともに、「卸売業、小売業」「製造業」「医療、福祉」の3つの産業で過半数を占めている。



事務所数・従業員数・付加価値額の産業分類構成比(第4回産業戦略会議 2016.2.16より)

# 2) 土地利用状況

和歌山市は、戦災復興土地区画整理事業等によって紀ノ川以南の平野部が市街地として整備され、市街地には和歌山市駅前、和歌山駅前、ぶらくり丁の3つの商業核がある。 また、和歌山城周辺は業務施設が多く立地しており、城をシンボルに中心市街地を形成している。

しかし、近年、中心市街地の人口減少、中心商店街の通行量減少などの空洞化が進み、空き地の増加・建物の老朽化が顕著に認められるようになっている。また、大丸百貨店が平成10年、丸正百貨店が平成13年、高島屋百貨店が平成24年に閉店している。

和歌山市ではこの状況を改善するために、和歌山城を含む約 186ha の区域で中心市街地活性化基本計画 (平成 19 年 8 月認定) を作成している。

これにより、和歌山城周辺(特に近接するけやき大通りや国道 42 号、三年坂など)においても今後再開発整備が実施され、より高度な土地利用が進められることが予想される。



中心市街地活性化基本計画認定区域

# 3) 道路·交通状況

# (1)道路

和歌山市を取り巻く主要幹線道路は国道 24 号・国道 26 号・国道 42 号である。広域 道路である阪和自動車道を南に延伸する紀勢自動車道が整備され、平成 27 年にはすさみ 南 IC までの区間が開通した。

また、京都、奈良と和歌山を結ぶ京奈和自動車道のうち、和歌山エリアについては、 平成 27 年に岩出根来 IC〜紀の川 IC 間が開通し、平成 29 年には残りの区間が整備され 和歌山 JCT で阪和自動車道と接続している。

一方、国道 26 号の慢性的な渋滞を緩和するために平成 8 年に着工された第二阪和国 道は、平成 27 年に和歌山岬道路が供用され、平成 29 年に全線開通となった。

これら道路網の整備により、観光地へのアクセスが向上することから、さらなる観光 者数の増加に期待が持てることになる。

乗用車保有台数 (一般財団法人 自動車検査登録情報協会)

都道	府県	平成7年度	平成 27 年度	増 減
中部	福井県	333,936	502,646	+168,710
	岐阜県	902,543	1,282,106	+379,563
	静岡県	1,489,081	2,176,526	+687,445
	愛知県	2,834,394	4,064,359	+1,229,965
	三重県	741,859	1,136,000	+394,141
	計	6,301,813	9,161,637	+2,859,824
近畿	滋賀県	476,720	781,494	+304,774
	京都府	792,423	998,557	+206,134
	大阪府	2,288,477	2,745,204	+456,727
	奈良県	453,407	647,242	+193,835
	和歌山県	362,806	533,500	+170,694
	兵庫県	1,657,981	2,287,524	+629,543
	計	6,031,814	7,993,521	+1,961,707
中国	鳥取県	214,800	339,736	+124,936
	島根県	262,666	402,335	+139,669
	岡山県	747,512	1,133,595	+386,083
	広島県	979,757	1,432,603	+452,846
	山口県	569,994	814,696	+244,702
	計	2,774,729	4,122,965	+1,348,236
四国	徳島県	298,293	450,488	+152,195
	香川県	371,420	578,736	+152,195
	愛媛県	474,258	729,356	+207,316
	高知県	266,733	390,440	+123,707
	計	1,410,704	2,149,020	+738,316
国内	の総計	42,956,339	60,517,249	+17,560,910

#### (2)海路

海上交通としては南海フェリーが和歌山徳島航路を1日9往復運航(現在、1便は休 航) しているが、平成 10 年の明石海峡大橋の供用開始に伴い、利用者数は、平成 9 年度 の約 101 万人から平成 10 年度は約 79 万人に落ち込み、平成 27 年度には約 44 万人とな っている。

平成 21 年 12 月には、和歌山市と徳島市が『和歌山徳島航路地域公共交通総合連携計 画(和歌山徳島航路活性化連携計画)』を策定し、和歌山徳島航路の活性化に取り組み、 現在、連携計画の事業は終了しているが、和歌山徳島航路活性化協議会において和歌山 徳島航路の活性化に向けて定期的に意見交換を行っている。

#### (3) 鉄道

和歌山市の鉄道は、JR 阪和線・紀勢本線・和歌山線、南海電鉄本線・加太線・和歌山 港線、和歌山電鐵貴志川線が通っている。

平成 27 年度の和歌山駅 (JR・和歌山電鐵) の乗降客数は 43,853 人/日であり、平成 7 年度から約 16%減となっている。また、平成 27 年度の和歌山市駅(南海・JR)の乗降 客数は21,722人/日であり、平成7年度から約41%減となっている。

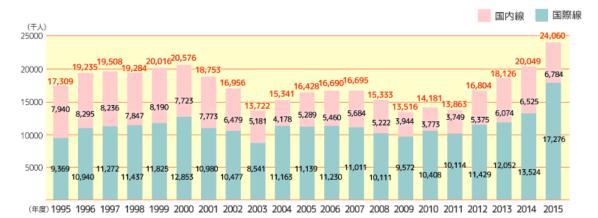
#### 各路線の輸送人員の推移

各路線の輸送人員の推移 (単位:千人)							
	JR 阪和線	JR 紀勢本線	JR 和歌山線	南海電鉄	南海電鉄	南海電鉄	和歌山電鐵
				本線	加太線	和歌山港線	貴志川線
平成7年度	3, 123	23, 148	5, 881	8, 338	4, 127	922	2, 727
平成22年度	3, 015	17, 330	4, 637	4,660	2, 069	190	2, 171
平成23年度	3, 033	16, 967	4, 708	4, 616	2,014	176	2, 182
平成24年度	3, 039	16, 949	4, 668	4, 949	1, 972	166	2, 166
平成25年度	3, 103	17, 474	4, 791	5, 325	2, 025	159	2, 298
平成26年度	2, 968	16, 855	4, 627	5, 963	1, 964	156	2, 279
平成27年度	3, 020	17, 245	4, 722	6, 144	1, 954	166	2, 320

(和歌山県総合交通政策課の資料を基に作成)

#### (4) 空路

平成6年9月に関西国際空港が開港し、平成27年度の航空旅客数は24,060千人(国 内線 6,784 千人、国際線 17,276 千人) であった。平成 29 年 1 月には LCC の専用施設と して第2ターミナルビル(国際線)が供用開始されており、今後、LCCを利用した航空 旅客数の増加が予想される。



航空旅客数(関西エアポート株式会社資料)

# ☆関西国際空港からの交通機関

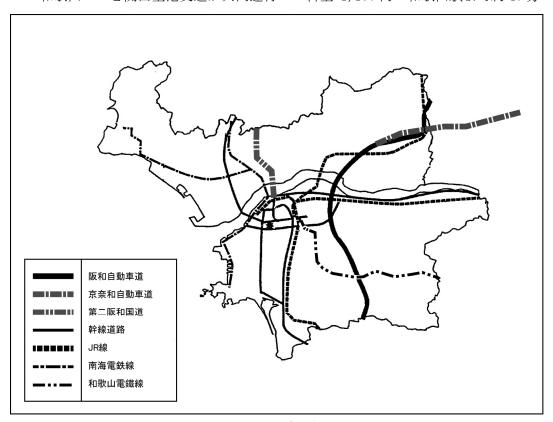
# ◇鉄道

・JR 関西空港~日根野~和歌山 料金:890 円 所要時間:約45分

・南海電鉄 関西空港~泉佐野~和歌山市 料金:870円 所要時間:約40分

# ◇リムジンバス

和歌山バスと関西空港交通が共同運行 料金:1,150 円 和歌山駅まで約40分



■図-7 交通網図

# 4) 観光レクリエーション

和歌山市への観光客数は平成 5 年で 500 万人あまりであったのに対し、平成 26 年度では約 620 万人あまり (加太・友ヶ島・磯ノ浦地区に 890, 910 人、和歌浦・紀三井寺・和歌山城地区に 5,291,971 人) であった。特に、和歌浦・紀三井寺・和歌山城地区においては、平成 24 年の 4,920,949 人から、約 37 万人程度観光客が増加している。

和歌浦・紀三井寺・和歌山城地区への観光客数の動向

	H23 年	H24 年	H25 年	H26 年	H27年	H28年
日帰り客	4, 191, 600	4, 461, 502	4, 659, 000	4, 682, 584	5, 586, 066	5, 589, 675
宿泊客	388, 916	459, 447	535, 333	609, 387	838, 654	901, 924
(外国人)	5, 846	14, 371	21, 931	58, 560	107, 381	156, 498
観光客総数	4, 580, 516	4, 920, 949	5, 194, 333	5, 291, 971	6, 424, 720	6, 491, 599

和歌山市に宿泊した観光客は、近年大きく伸びている。平成 28 年の宿泊者総数は 901,924 人であり、近畿圏からの来訪が多かった。

観光客数が増加した要因の一つとして、LCC を利用した外国人観光客が増えたことが挙げられる。和歌山市に宿泊した外国人は、平成 23 年から平成 28 年にかけて約 27 倍の伸びを示している。このうち、アジアからの来訪が約 9 割を占め、特に、中国、香港からの来訪が多くなっている。

発地別の宿泊客数 (単位:人)

	шоо /т:	110.4 /т:	110F /T:	Hoc 4:	H27 年	H28 年	
	H23 年	H24 年	H25 年	H26 年		客 数	%
和歌山	65, 805	64, 476	72, 231	71, 615	84, 155	90, 257	10
大阪	97, 864	113, 571	123, 192	119, 505	153, 369	140, 173	16
京都	15, 422	18, 602	19, 183	17, 826	22, 338	25, 020	3
兵庫	28, 889	34, 193	33, 390	32, 532	39, 337	44, 574	5
奈良	11, 435	13, 297	14, 462	12, 296	17, 412	17, 068	2
滋賀	5, 756	7,830	8, 459	6, 426	10, 514	10, 869	1
三重	5, 797	6, 456	4, 984	5, 706	6, 548	7, 220	1
四国	11, 023	14, 370	12, 657	10,830	17, 387	13, 146	1
中国	12, 871	12, 463	14, 676	12, 885	18, 602	15, 873	2
東海	28, 294	25, 711	25, 724	22, 503	29, 684	31, 400	3
北陸	6, 567	8, 738	8, 133	9, 316	11, 746	9, 255	1
関東	62, 875	69, 350	73, 379	91, 063	92, 104	99, 078	11
東北	3, 313	6, 099	5, 171	5, 453	11, 720	5, 785	1
北海道	2, 683	3, 328	5, 321	5, 576	6, 381	4, 365	0
九州	10, 865	12, 306	15, 160	13, 243	20, 146	15, 936	2
外国人	5, 846	14, 371	21, 931	58, 560	107, 381	156, 498	17
不明	13, 611	34, 286	77, 280	114, 052	189, 879	214, 907	24
計	388, 916	459, 447	535, 333	609, 387	838, 654	901, 924	100

# 外国人宿泊客の内訳

(単位:人)

7 = 7 = 7						٠.	,
		H23 年	H24 年	H25 年	H26 年	H27年	H28 年
アジア	中 国	1,089	2, 304	4,606	22, 699	51, 716	90, 679
	韓国	639	992	897	1, 514	3, 094	4, 515
	台 湾	261	1, 028	1, 794	12, 562	11,808	9, 679
	香 港	874	3, 216	6, 265	8, 735	21, 204	26, 105
	シンガポール	114	258	419	478	1, 142	1, 515
	タイ	218	282	825	1, 260	2, 298	3, 642
	マレーシア	_	_	_	418	488	761
	インドネシア	_			592	257	846
	インド	_	_	_	204	97	310
	その他	545	1, 145	1, 266	1, 099	1,854	2, 127
	小 計	3, 740	9, 225	16, 072	49, 561	93, 958	140, 179 (89%)
北アメリカ	アメリカ	661	974	956	2, 266	1, 385	2, 431
	カナダ	44	127	333	493	375	547
	小 計	705	1, 101	1、289	2, 759	1, 760	2, 978 (2%)
ヨーロッパ	イギリス	120	277	510	577	608	882
	フランス	120	254	317	359	414	869
	ドイツ	63	229	166	330	228	614
	スペイン	_			115	128	240
	その他	282	758	675	1, 107	876	1, 397
	小 計	585	1, 518	1, 668	2, 488	2, 254	4, 002 (3%)
その他	オーストラリ ア、ニュージー ランド	199	547	483	687	1, 415	896
	その他	617	1, 980	2, 419	3, 065	7, 994	8, 443
	小 計	816	2, 527	2, 902	3, 752	9, 409	9, 339 (6%)
合 計		5, 846	14, 371	21, 931	58, 560	107, 381	156, 498 (100%)

また、「訪日外国人観光客の動態(速報)観光課」では、次のような調査結果も出ている。和歌山に来訪している外国人観光客は、個人手配の旅行が約半数を占め、複数回来訪する割合が高い。和歌山城は、市内で訪れたい観光スポットの1つとなっている。

# 訪日外国人観光客の動態 (速報)

調査日時:平成27年6月8日~11日(年4回実施のうち1回目)

調査人数:494人

調査場所:JR 和歌山駅、和歌山電鐵貴志川線貴志駅、和歌山城、南海和歌山市駅、

和歌山マリーナシティ、黒潮市場の5箇所

国 別:台湾200人、香港151人、中国46人、タイ王国23人、シンガポール17人

訪和回数:6回以上59人、2~5回240人、初回163人旅行形態:パッケージツアー203人、個人手配237人

交通手段:観光バス 154 人、JR 在来線 140 人、南海電車 80 人、路線バス 64 人、

レンタカー26人(複数回答有り)

和歌山市で行ってみたい場所: たま駅長、和歌山城、和歌山ラーメン等



■図-8 代表的な観光施設、レジャー施設等

# 市内のまつりと行事

開催日	行事名称	開催場所
1月2日	書き初め大会	和歌浦天満宮
1月2日	新春かるた大会	玉津島神社
1月3日	献詠歌会	玉津島神社
1月15日	卯杖(うずえ)祭	伊太祁曽神社
1月18日	初観音	紀三井寺
1月25日	初天神	和歌浦天満宮
2月3日	節分	紀三井寺
2月3日	節分	和歌浦天満宮
2月3日	お焚き上げ祭(古神札焼納祭)	日前神宮 國懸神宮
2月8日	針供養	淡嶋神社
3月3日	雛流し	淡嶋神社
3月第1土曜日	加太の桜鯛祭り	加太おさかな創庫・駐車場
3月15日	涅槃会(ねはんえ)	了法寺
3月25日	和歌浦天満宮大祭	和歌浦天満宮
3月20日~4月20日	桜まつり	紀三井寺
3月下旬~4月中旬	桜まつり	和歌山城
4月第1日曜日	木祭り	伊太祁曽神社
4月中旬	四季の郷クラフトフェア in たけのこ祭	四季の郷公園
4月下旬	La Festa Primavera(ラ フェスタ プリマ	和歌山市内(和歌山城ほか)
5.0.0.5.0.5.0	ヴェラ )	Tm可以,
5月3日~5月5日	スターライトイリュージョン	和歌山マリーナシティ
5月上旬	和歌浦漁港朝市(おっとっと広場)	和歌浦漁港駐車場
5月中旬	和歌祭	紀州東照宮・和歌浦周辺
5月第3土曜日	えび祭り	加太春日神社
6月末~8月31日	加太海水浴場	和歌山市加太
7月1日~8月31日	磯の浦海水浴場	和歌山市磯の浦
7月1日~8月31日	片男波海水浴場	和歌山市和歌浦
7月1日~8月31日	浪早ビーチ	和歌山市田野
7月1日~8月31日	浜の宮ビーチ	和歌山市毛見
7月1日~7月7日	たなばた祭	淡嶋神社
7月7日	七夕・祇園祭	紀三井寺
7月、8月、9月	スターライトイリュージョン	和歌山マリーナシティ
7月24日~7月25日	天神祭	和歌浦天満宮
7月26日	日前宮薪能	日前神宮 國懸神宮
7月下旬	港まつり花火大会	和歌山港 中ふ頭万トンバース

7月下旬、8月上旬	おどるんや〜紀州よさこい祭り〜	和歌山城ほか市内各所
7月30日~7月31日	茅輪祭(輪くぐり)	伊太祁曽神社
7月30日~7月31日	夏祭	淡嶋神社
8月第1土曜日	紀州おどり「ぶんだら節」	和歌山城周辺
8月9日	千日詣	紀三井寺
8月15日	灯篭供養	紀三井寺
9月20日~9月26日	秋季彼岸会	紀三井寺
9月26日	日前神宮・國懸神宮例大祭	日前神宮 國懸神宮
10月3日	甘酒祭	淡嶋神社
10月15日	伊太祁曽神社例祭	伊太祁曽神社
10 月中旬	神幸祭	伊太祁曽神社
10 月中旬	まちなかキャンドルイルミネーション・竹	和歌山城とその周辺
	燈夜	
10 月中旬	和歌山城市民茶会	岡公園茶室
10 月中旬	こども茶道体験	和歌山城 紅葉渓庭園内紅松庵
10 月中旬	木ノ本の獅子舞	木本八幡宮
10月中旬~11月中旬	菊花展	和歌山城表坂登り口前広場
11月29日	和歌浦ベイマラソン with ジャズ	和歌山マリーナシティ~和歌山
		港
11月3日	和歌浦漁港朝市しらすまつり	和歌浦漁港駐車場
11月13日	開山忌	紀三井寺
11 月下旬	食祭 WAKAYAMA	和歌山城砂の丸広場ほか
12月18日	しまい観音	紀三井寺
12月31日	ニューイヤーズ カウントダウン(スター	和歌山マリーナシティ(西側防波
	ライトイリュージョン)	堤)
· · · · · · · · · · · · · · · · · · ·	·	· · · · · · · · · · · · · · · · · · ·

# 5)和歌山市の公園緑地

平成 28 年 3 月時点で、市域の都市公園の供用面積は 224.654ha、1 人あたりの面積は 6.17 ㎡となっている。(公園面積は「和歌山市の都市計画 2016」より、人口は平成 27 年 12 月 31 日の 363,854 人を使用)

その中で、和歌山公園 20.45ha は、特殊公園(歴史公園)として位置づけられている。和歌山公園は、和歌山市の歴史的資源の中心、シンボルであるとともに、市街地の中心に位置する都市のオープンスペースとして環境保全、レクリエーションなどの役割を果たしている。また、地区の避難地でもあり、防災の観点からも重要な位置づけを与えられている。

#### 3. 和歌山城の歴史概要

# 1)和歌山城の成り立ち

和歌山城は、天正 13 年 (1585) に羽柴秀吉が弟の秀長に命じて創建させた。藤堂高虎・羽田正親・横浜良慶が普請奉行となり、天正 13 年中には現在の天守郭と本丸に相当する部分の普請が完了したという。秀長が郡山城に移ると、桑山重晴が和歌山城の城代をつとめる。ただし、重晴は秀長やその養子である秀保のもとで広域の支配や対外交渉にあたっており、もともと紀州の支配に専念する立場にはなかった。文禄 4 年 (1595) に秀保が亡くなると、重晴は和歌山城主となる。桑山家の家紋である桔梗紋の瓦が城内で数点見つかっており、和歌山城が桑山氏の城として整備されたことがわかる。

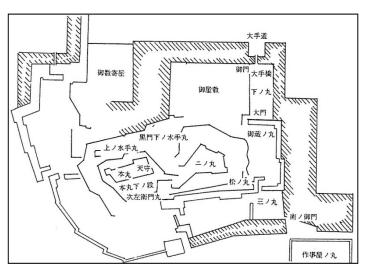


■図-9 城内石垣の石材分布図

豊臣・桑山期の縄張は明確ではないが、結晶片岩を用いた野面積みの石垣が虎伏山の山上から山裾にかけて分布し、古い時代の痕跡を留めている。特に、天守台の石垣は転用石を豊富に含み、創建期にさかのぼる石垣と考えられている。天守一の門石垣の裏込めにも、中世の石造物が多数用いられていることが発掘調査で確認された。

創建当初の和歌山城は、岡口を大手とする構造であったと言われている。岡口門の北東にあたる和歌山地方裁判所の敷地内で桔梗紋の軒丸瓦片が出土しており、桑山期の造成が城の東方に及んでいたことがうかがえる。また、和歌山城の創建に伴い、虎伏山の北麓にあった釘貫村が鷺森の東部に移転し、北町と呼ばれたと伝わっている。これを事実と見るならば、北麓でも一定の造成がなされていたことになろう。

慶長5年(1600)、関ヶ原の 戦いで東軍についた浅野幸長 が紀伊国に移封され、和歌山城 主となる。浅野氏は、虎伏山の 北麓に「御屋敷」と「御数寄屋」 を構え、居城として整備を進め た。黒板張りの連立式天守も浅 野期に整備され、徳川期にも継 承される。また、大手を岡口か ら一の橋の方面に移し、大手筋 を基軸とする正方位の町割り を施した。こうして、近世の城 と城下町の枠組みが浅野期に 形成された。



■図-10 浅野期の曲輪名 (三尾功『近世都市和歌山の研究』思文閣出版、1994)

西の丸の西部を画する勘定門東側櫓台石垣は、砂岩と結晶片岩の自然石を併用した野面積みである。発掘調査の結果、浅野家の違鷹羽紋をかたどった滴水瓦が多数出土し、浅野期に構築されたことが判明した。同様の石垣は、西之丸庭園の西面から鶴之渓にかけて広がり、浅野期の内郭ラインを想定する手がかりとなる。

さらに、二の丸西部の発掘調査で、浅野期の「御屋敷」の西面にあたる石垣が検出された。徳川期の「大奥」に相当する部分が、内堀の一部を埋め立てて造成されたことが考古学的に実証されたのである。この石垣は、砂岩の自然石を築石とし、結晶片岩の間詰石を充填して築かれている。築石の一部には刻印が施されている。

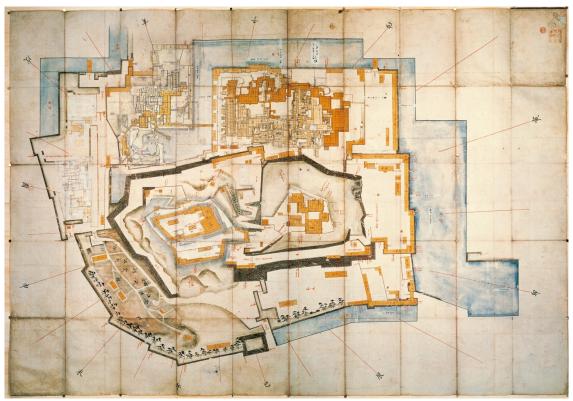
和歌山城内では 1,700 個以上の刻印石が確認されており、その多くは浅野期の石垣に用いられたと考えられている。砂の丸南部にあたる新裏坂下の石垣では、600 個以上の刻印が確認されている。この石垣は砂岩の打ち込みハギであり、勘定門東側櫓台石垣や二の丸西部の埋没石垣に比べ、石材の加工度が格段に高まっている。このように、浅野期のなかでも石垣の構築技術に段階差が認められる。刻印を用いることの意味やその時期については、なお検討を要する。

元和5年(1619)、徳川家康の十男、頼宣が紀伊に入国し、紀州藩55万5千石が成立した。元和7年、頼宣は江戸幕府より銀2,000貫を賜り、和歌山城の整備に着手する。砂の丸・南の丸の造成、二の丸の拡張がこの時になされた。現存する岡口門(国重要文化財)もこの時に建設されたと考えられる。

その後、建物の増改築や石垣の整備等は度々行われるが、ベースとなる縄張は変化しない。和歌山城は、16世紀後半から17世紀前半にかけて、城主の移り変わりとともに順次拡張され、最終的には徳川一門にふさわしい居城として整備されたのである。

#### 2) 幕末期の和歌山城

本計画では、幕末期の姿を基本として和歌山城の整備を図ることとする。そこで、幕末期の和歌山城の様相を、「和歌山御城内惣御絵図」(和歌山県立図書館蔵)から探ってみたい。本資料は、原図が寛政年間(1789~1801)に作成され、建て替えの度に貼紙で現状を示した貼絵図である。藩が存続する間、現用で使い続けたことがうかがえ、城内の建物を把握するための基本資料といえる。この資料から、失われた建物の配置を詳細に知ることができる。



■図-11 和歌山御城内惣御絵図(和歌山県立図書館蔵)

虎伏山の2つの峰には、天守閣と本丸御殿が並び建つ。天守閣は、三層三階の大天守と 二層の小天守、乾櫓、二の門櫓を多門でつないだ連立式である。浅野期に黒板張りでつ くられ、寛政10年(1798)に白壁に改められる。しかし、弘化3年(1846)に落雷で焼 失し、嘉永3年(1850)にもとの形状で再建された。普段は武器や武具などの保管庫と して活用され、藩主が立ち寄ることは稀であった。

天守台の下段には、天守常番が詰める番所や櫓、蔵などがあった。天守台とこの下段を含めて天守郭と呼ぶ。天守郭の南斜面下には、「黄金水」という井戸をもつ水の手があり、 天守郭で必要となる飲料水を確保できるようになっていた。

虎伏山の東峰には、不等辺五角形の郭に大広間・黒書院・白書院などの御殿が正方位に 建ち並んでいた。浅野期にはここが政治の中心であったが、不便で手狭なことからあま り使用されず、ほとんど空屋敷であった。 このように、幕末期の和歌山城では、山上は城を象徴する空間として専ら位置づけられ、 日常的に使用されることはほとんどなかった。平常の政治や生活の機能は、北麓に集約 されていたと考えられる。

二の丸には、藩の政治・儀礼や藩主たちの生活の拠点となる壮大な御殿が建っていた。 これらは、その機能により表・中奥・大奥と呼び分けられていた。表は、藩主が謁見や 儀式を行い、藩の政庁として諸役人が政務を執る場である。中奥は、藩主の公邸にあた り、藩主の居間や側近の詰所などがあった。大奥は、藩主の私邸であり、奥女中たちの 生活空間である。もともと御内証と呼ばれていたが、紀州藩 10 代藩主徳川治宝の時に、 江戸城にならって大奥と呼び改めたことがわかっている。大奥の呼称を用いた藩は極め て少なく、紀州藩の格式の高さがうかがえる。

西の丸は、和歌山城における武家文化の拠点であった。東部に常設の能舞台があり、藩の公式行事として、家臣や時には町人も招いて能が催された。能「石橋」を独自に復活させた初代頼宣や、新作能の創作を命じた 6 代宗直のように、プライベートで能に打ち込んだ藩主も多かった。

南部の西之丸庭園(国名勝)は、内堀を池に見立て、結晶片岩の巨石をふんだんに用いた池泉回遊式の庭園である。この庭園を南に眺める位置に、数寄屋(茶室)があった。庭園南西の高台には、離れ座敷の聴松閣と茶室の水月軒があり、自然風雅と茶の湯を楽しむ場となっていた。なお、西の丸西部の発掘調査で、11代藩主斉順が手がけた清寧軒御庭焼の遺物が多数出土した。その大半は、茶の湯に用いる道具である。茶の湯に深く関わる作陶が、西の丸でなされたことがわかる。

以上のように、幕末期に城の実質的な中心であった北麓は、政治・生活の拠点である二の丸と、文化の拠点である西の丸に分かれていた。二の丸と西の丸は内堀により空間的に分離されていたが、御橋廊下が両者をつなぐ役割を果たした。御橋廊下は、藩主とお付きの者しか通行できず、風雨を避けるために屋根と壁が設けられていた。

一方、北麓以外の麓の郭では、建物の分布は疎らである。とりわけ、徳川期に造成された砂の丸・南の丸では、石垣上に櫓等の建物はほとんど見られない。下の丸から岡口門枡形にかけて櫓群が建ち並ぶ状況とは対照的である。縄張を拡張しておきながら、内部の空間利用がなぜ進まなかったのかは今後検討すべき課題である。いずれにせよ、幕末期の和歌山城が一定の空閑地を抱える構造であったことは留意しなければならない。

和歌山城が創建された当初は、城が戦乱に巻き込まれる可能性が現実のものとしてあり、 軍事的な役割が重視されたと考えられる。徳川幕藩体制が確立し、軍事的な危機がほと んど想定できない時代にあっても、藩主の生命や藩の政治機能を守るため、城の防御性 は一定度必要とされた。それゆえ、人の出入りを妨げる工夫は幕末期においても維持さ れた。

和歌山城の内堀は、西之丸庭園から岡口門前にかけて内郭を取り巻き、南の丸の南部にも内堀が独立して存在する。西の丸は内堀の外に位置し、空間的には外郭にあたる通称

「三の丸」との一体性が強い。 「三の丸」を画する外堀は、吹 上口の北面をめぐり、砂の丸北 部で途切れる。そこから南側は、 砂の丸の石垣で防御される。こ の石垣は傾斜が急で、屏風折れ の形になっている。このように、 内堀が内郭全体を囲郭せず、水 堀と石垣を組み合わせた防御ラ インが構築された点に和歌山城 の特徴がある。

城内には数多くの門があり、 直進できない構造になっている ものも見受けられる。大手門・ 岡口門にはまっすぐ入る格好と なるが、その奥に枡形の一中門・ 岡中門がそれぞれ控え、全体とし



■図-12 安政2年(1855)和歌山城下町絵図 (和歌山市立博物館蔵)

て防御を考慮した構造となっている。特に、北西の吹上口は、三つの城門からなる複合的な枡形虎口で、全国的にも珍しい形状である。吹上口には雁木が設けられ、外堀の水運を利用して物資の荷揚げが行われた。このように、重要な出入り口に舟で乗り入れできるようになると、城の防御性は相対的に低下するが、城内での生活を維持するためには必要な機能と言えよう。

以上、和歌山城を防御する仕組みは近世を通じて維持された。しかし、城域が順次拡張し、統一したプランニングのもとで縄張がなされなかったため、内郭の防御ラインは一元化されなかった。また、吹上口の雁木に象徴されるように、日常の利便性が重視され、本来の防御機能が損なわれるケースもあった。歴史の積み重なりの上に、軍事性と居住性の折り合いが追求されたのである。

#### 3) 廃藩以後の歩み

明治 2 年 (1869) の版籍奉還の後も、 和歌山城には砂の丸に戍営・政事庁、西 の丸に知藩事の役宅、二の丸に藩校がそ れぞれ置かれ、藩政の中枢として機能し た。しかし、明治 4 年の廃藩置県で和歌 山藩は廃止され、和歌山城は兵部省(の ち陸軍省)の管轄となる。



■図-13 大阪城に移築された二の丸大広間

陸軍省の管轄下で、本丸台所の光恩寺への移築(明治 13 年)、二の丸大広間等の大阪城への移築(明治 18 年)、吹上大門及び土塀の撤去(明治 21 年)など、城内の建物の移築、払い下げや破却が進んだ。また、和歌山中学校が明治 22 年に西の丸に移転し、砂の丸北部が運動場として使用される。西の丸西側石垣の切り通しは、この時に設けられたと考えられる。なお、和歌山中学校は大正 4 年(1915)に移転し、校舎は和歌山市役所として使用された。

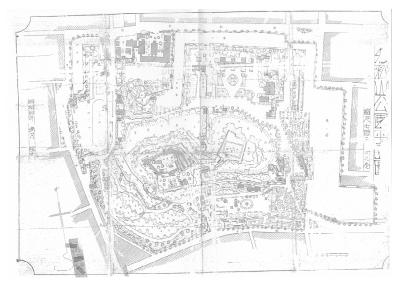
明治 34 年、和歌山県は陸軍省より城地を移管され、和歌山公園として公開する。同年、二の丸に県の物産陳列所が建ち、特産物や工芸品の展示・紹介がなされ、動物園舎も併設された。大正 9 年には、物産陳列所跡を含む二の丸の中央部に産業博物館が開館する(大正 10 年に商品陳列所、昭和 10 年に物産販売斡旋所と改称)。さらに、明治 41 年には二の丸西部に県立図書館が建設された。城地の移管を機に、二の丸に県の施設が順次整備されたことがうかがえる。

明治45年、城地は和歌山市に払い下げられ、和歌山城は「市民の城」として歩みを進めていくことになる。本来、人の出入りを制限する城に多くの人を迎え入れるため、遺構の破壊・改変を伴うアクセスの向上が度々検討された。大正3年には、大正天皇即位記念事業の一環で、和歌山城を東西に横断する道路の整備が計画されたが、反対意見が多く実現しなかった。同じ頃、堀を埋め立てる計画が浮上し、南方熊楠らにより反対運動が展開する。その結果、南堀は大正14年に埋め立てられ、現在はつつじ園となっている。吹上口前の堀(西堀の東部)も、大正14年から昭和4年(1929)頃までに埋め立てられた。

大正3年、和歌山市は東京帝国大学の本多静六に和歌山公園の設計を依頼した。本多は、「歴史的記念物たる要素と、遊園地たる要素と二要素を共に活用するの大方針」に基づき、各種庭園や動物園、植栽等の整備を提案した。そこでは、通行の妨げになるとして

枡形を構成する石垣の 撤去などが謳われてい た。そのため、県の許可 が得られず、設計変更を した上で、翌年度より 5 ケ年かけて整備が進め られた。現在の園路等は、 この時の整備を多分に 踏襲したものとなって いる。

昭和6年、文部省は和 歌山城の旧城地を国の 史跡に指定した。同10年



■図-14 昭和4年の和歌山公園平面図 (和歌山城整備企画課蔵)

には、天守閣が国宝に指定される。こうして、和歌山城の歴史的価値が公に認められることとなった。ただし、史跡指定地の改変は以後も進む。昭和 11 年には、西の丸に市役所の新庁舎が竣工する。昭和 12 年、二の丸の県立図書館の改築がなされ、砂の丸南部に招魂社(昭和 14 年より護国神社)が建立された。

昭和20年、天守閣は空襲で焼失し、同33年に鉄筋コンクリート造(一部木造)で再建される。外観は、江戸後期の図面や古写真等に基づき忠実に再現され、かつての佇まいを今に伝えている。また、市民から多額の寄付を受けて整備され、和歌山市の戦後復興のシンボルとなっている。なお再建にあたっては、建物の基礎を岩盤に直接据える工法が採用され、十分な調査が行われないまま地下の遺構が破壊された。時代の制約とは言え、天守台の成り立ちを探る手がかりが失われたことは残念である。

天守閣再建の過程で、岡口門の文化財的価値が評価され、昭和 32 年、北部の土塀とともに国の重要文化財に指定された。岡口門と土塀は老朽化がかなり進んでいたため、昭和 35 年に大がかりな解体修理が施された。

昭和43年、和歌山市は京都大学農学部の岡崎文彬に「和歌山公園基本計画」の策定を委託した。岡崎は、和歌山公園の文化財的側面・観光地的・都市公園的側面をそれぞれ整理した上で、西之丸庭園・動物園の整備、砂の丸野外劇場の新設を含む公園整備計画を策定した。西之丸庭園の整備では、資料に基づき学術調査を行い、有識者や専門業者を交えて設計を行う必要性が提起され、史跡整備の特殊性が意識されている。当時、浚渫土砂による東堀の埋立地を駐車場に活用する案が浮上していたが、岡崎は文化財保護の観点からこれを痛烈に批判している。

このように、本計画は史跡としての和歌山城の保全を一定度意識している。ただし、具体的に計画された事業は主に公園整備に関わるものであり、史跡としての整備計画ではなかった。この計画に基づき、昭和43年度より5ヶ年で整備事業が進められ、西之丸庭園の整備、童話園・水禽園(動物園)の開園が実現した。

昭和50年代には、砂の丸石垣の解体修理が継続的になされ、構造体としての安定性や安全性の確保が目指された。昭和57年には大手門、翌年には一の橋が復元され、城の正面玄関の整備がなされた。この整備に先立って発掘調査が行われ、門の礎石や橋脚の杭列を検出した。地下遺構の把握に基づく整備の先がけとなる事例である。昭和59年には井戸屋形、同60年には追廻門の解体修理がそれぞれ行われ、現存する城郭建築の保全が進められる。

こうした史跡整備の進展を受けて、平成 5 年に「史跡和歌山城保存管理計画」が策定され、史跡としての保存管理の基本方針と今後のあるべき方向性が示された。その内容を踏まえて、平成 7 年に「史跡和歌山城整備計画」が策定され、長期にわたる史跡整備の計画が打ち出された。その後、整備手法やスケジュールの調整を経ながら、本計画に基づき史跡和歌山城の整備が進められてきた。

#### 4. 遺構整備の状況

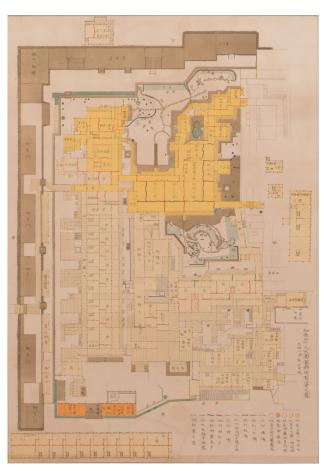
#### 1) 発掘調査

大手門の再建に伴う昭和56年の第1次調査を皮切りに、平成28年まで39次にわたり発掘調査を実施してきた。当初は便益施設や配管などのインフラ整備に伴う調査が中心であったが、平成7年に整備計画が策定されてからは、整備を目的とした調査が継続的になされる。

石垣修理に伴う調査は、表坂・裏 坂登り口、天守一の門櫓台、東堀、 勘定御門東側櫓台において実施され た。普段は見ることのできない石垣 の裏側や上面の遺構を詳細に調査し、 石垣の構築技法や年代を探る貴重な 手がかりを得た。

復元整備を目的とした調査は、御橋廊下とその周辺、二の丸西部、吹上口において実施された。御橋廊下の基礎部分では、橋脚の遺構を確認するとともに、屋根に葺かれていた桟瓦や建築部材などの遺物を検出し、復元のための基礎データを得ることができた。

二の丸西部では、県立図書館・博物館があった部分は遺構が失われていたが、その周辺には遺構が良好に残されていることが発掘調査で判明した。江戸後期の大奥に関する遺構としては、建物の礎石や庭園、土塀基礎の石組、石組溝、石貼井戸、穴蔵などが見つかっている。庭園の遺構は大奥北部の坪庭(漆喰貼りのひょうたん型池)・中部の中庭(心字池)において良好に検出され、城内庭園の実態を示すものとして注目される。これらの遺構は、江戸後期の「和歌山



■図-15 和歌山二之丸大奥当時御有姿之図 (和歌山城整備企画課蔵)



■図-16 二の丸西部中庭の心字池

二之丸大奥当時御有姿之図」と概ね対照することができる。さらに、浅野期の埋没石垣

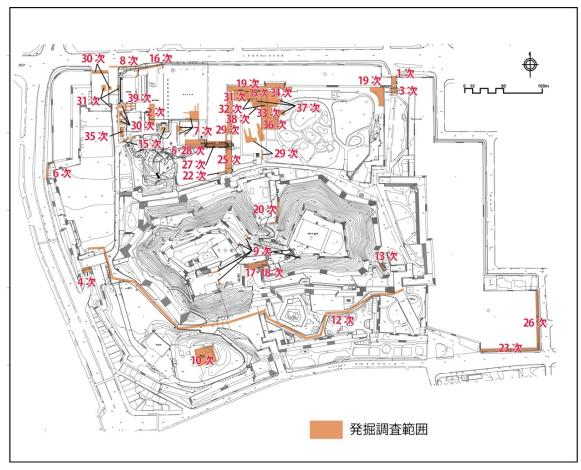
が大奥の東部を南北に縦断する形で検出され、二の丸西部が内堀の一部を埋め立てて造成されたことが考古学的に実証された。

吹上口では、消防署庁舎が移転した後に発掘調査を行った。そこでは、埋められた西 堀の両端の石垣を検出するとともに、吹上橋の橋掛かりにあたる北側の張り出しを確認 した。これにより、吹上口の西部に関しては江戸期の平面構造を概ね把握することがで きた。

## 発掘調査の経緯(調査箇所は、図-17参照)

次数	調査年	内 容					
1	昭和 56 年	大手門に関する2時期の遺構面を確認。大手門の礎石を検出。					
2	昭和 57 年	西の丸西側で2時期の遺構面を確認。建物の基礎石組、石組溝、土坑等を検出。					
3	昭和 57 年	一の橋が過去に2度の架換が行われていることを確認。					
4	昭和 59 年	追廻門礎石の確認調査。石組暗渠配水溝等を検出。					
5	昭和 60 年	御橋廊下の西の丸側取付部分で石垣裏込を確認。内部に焼成痕のある円形土坑を検 出。					
6	昭和61年	砂の丸から西に突出する石垣基底部を検出。					
7	昭和 62 年	西の丸東部で雨落溝・半地下通路・石組等を検出。					
8	昭和 63 年	城北西部の埋められた堀にかかわる石垣を検出。					
9	昭和 63 年	天守閣と本丸周辺のグリッド及びトレンチ調査で石垣裾部を3ヶ所検出。					
10	平成2年	砂の丸南側の調査。江戸時代に遡る遺構は検出されなかった。					
11	平成2年	天守閣周辺でのトレンチ調査の結果、建物基壇、石組溝等を検出。					
12	平成5年	二の丸から表坂東側、中御門跡から砂の丸までトレンチ調査。石垣、土坑等を検出。					
13	平成7年	表坂登り口付近の結晶片岩石垣基底部及び坂道の造成状況等を確認。					
14	平成7年	勘定御門に関する礎石、西外堀に関する石垣等を確認。					
15	平成8年	西の丸跡南側の調査。3面の遺構面を確認し、石組暗渠溝等を検出。					
16	平成8年	西の丸北端部で石垣、石積み、石列等を検出。					
17	平成8年	天守一の門櫓台結晶片岩石垣の構築状況、周辺坂道の造成状況などを確認。					
18	平成 10 年	天守一の門櫓台結晶片岩石垣の裏込構造を確認した。					
19	平成 10 年	二の丸北辺部櫓台上で礎石、塼敷等を検出。二の丸櫓台石垣の構造等を確認。					
20	平成 10 年	裏坂登り口の結晶片岩石垣の構造等を確認。					
21	平成 11 年	西外堀に関する石垣を検出。					
22	平成 11 年	二の丸西側堀内において御橋廊下の橋脚遺構を検出。周辺の石垣構築状況を確認。					
23	平成 13 年	東堀南部の石垣構築状況を確認。					
24	平成 13 年	勘定御門に関わる礎石・石敷、石組溝を検出。					
25	平成 13 年	二の丸西側櫓台において御橋廊下据付部・多門櫓などを 3 時期確認。櫓台内に石室 を検出。					
26	平成 14 年	東堀南部の石垣構築状況を確認。					
27	平成 14 年	二の丸北西部において大奥の建物・漆喰塀・石組溝などを確認。					
28	平成 15 年	西の丸南東部隅の御橋廊下据付部周辺で砂岩礎石列などを確認。					
29	平成 16 年	二の丸西側部分において二の丸拡張以前の浅野期とみられる砂岩の埋没石垣などを 検出。					

30	平成 19 年	西堀北側において吹上橋据付部の張出石垣を確認。 勘定御門東櫓台上面で隅櫓建物と土塀を検出。
31	平成 20 年	吹上口において西外堀石垣・勘定御門関連遺構を確認。二の丸西部で大奥を区切る
01	1 /3% 20 +	土塀・石組溝等を検出。
		二の丸西部において江戸末期の礎石や漆喰池などの遺構面を検出。地中に埋没して
32	平成 21 年	いた浅野期西堀石垣を確認。
		V には対列口が正とを開かっ
33	平成 22 年	二の丸において礎石と根石を検出。御座之間の床下にあたる場所で地鎮・鎮壇の遺
55	33 平成 22 平	構を確認。
		二の丸西部(大奥)の建物及び裏庭に関する礎石・根石・階段台石などの遺構を検
34	平成 23 年	出。裏庭から水琴窟を確認。
		山。表だがり小今田で唯祕。
35	平成 24 年	勘定御門南側において櫓台石垣上面の土塀延長部分を検出。二の丸西部では江戸後
30	十成 24 十	期~末期の遺構面を確認。
		二の丸西部大奥中庭に関する石組池・玉石敷・飛石・植込石積などの遺構を検出。
36	平成 25 年	
		中庭は池泉回遊式庭園であることを確認。
0.7	T + 00 F	二の丸西部大奥の穴蔵・石組井戸・土塀基礎などの遺構を検出。大奥と中奥との境
37 平成 26 年		界を確認。
38	平成 27 年	二の丸西部大奥の穴蔵遺構の全容を確認。
39	平成 28 年	西の丸西側石垣上面の遺構を調査し、浅野期と徳川期の石垣を確認。



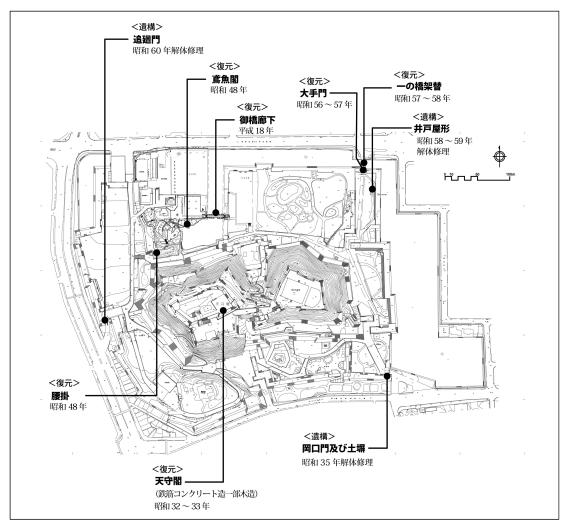
■図-17 和歌山城での発掘調査箇所

#### 2) 建造物の復元整備

現存する岡口門(附土塀)・追廻門・井戸屋形は、昭和30年代から昭和60年代にかけて解体修理が行われた。これらの内、岡口門は漆喰が剥がれ、損傷が目立つ。附土塀は、基礎石垣が大きく孕み、全体的に歪みが生じている。漆喰が剥がれて土壁が露出している箇所もある。基礎石垣の解体修理を含め、抜本的な対策が必要である。

天守閣は、昭和33年に鉄筋コンクリート造(一部木造)で復元された。既に鉄筋コンクリートの処分制限期間(50年)が経過し、外観も漆喰の汚れなどが目立つ。内部で歴史資料の展示を行っているが、空調設備がなく、温湿度の調整ができない。展示設備の老朽化も進んでいる。

昭和50年代には、大手門と一の橋が木造で復元され、城の正面玄関が整備された。平成18年には、御橋廊下が木造で復元される。御橋廊下は、江戸時代の絵図、発掘調査に基づく綿密な考証を経て整備され、全国的に珍しい斜めの廊下橋として、和歌山城の新たな見所となっている。



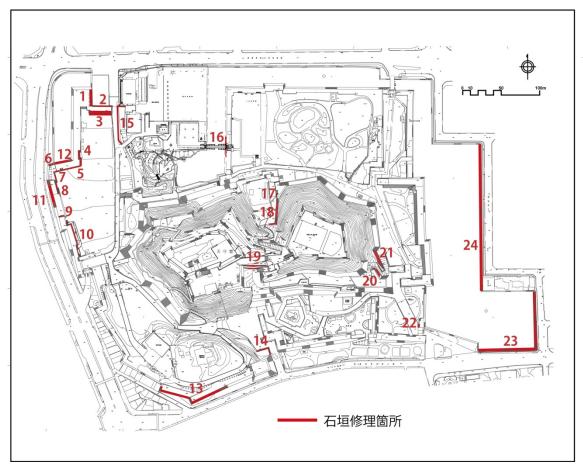
■図-18 主要建造物の整備状況

### 3) 石垣の整備

昭和50年代に、砂の丸石垣の解体修理をまとまった範囲で実施している。平成5年度の史跡和歌山城保存管理計画では、崩落の危険性が高いと見られる箇所がいくつか指摘された。これを受けて、平成6年より表坂、天守一の門櫓台、裏坂、東堀の石垣修理が順次進められた。また、御橋廊下の復元にあたり、二の丸側取り付き部の解体修理を実施している。

平成22年度から平成25年度にかけて石垣基礎調査を実施し、石積み技法、破損状況、 周辺状況、崩落の危険度などを石垣の面ごとに記録した「石垣カルテ」を取りまとめた。 これにより、城内石垣の現状を網羅的に把握することが可能となった。

平成23、24年度には、勘定御門東側石垣において、詰石と石材補強を主体とした保護工事を実施した。この石垣は、砂岩と結晶片岩を交えた野面積みで、浅野期に構築されたことが発掘調査で明らかになっている。オリジナルな形態を極力維持するため、解体修理によらない工法を模索した結果、このような措置を講じることになった。本事例は、石垣の旧状を活かした修復例として注目されている。



■図-19 石垣の修理箇所

#### 石垣保存修復履歴

修理年度	No.	修理箇所
	1	吹上口西部
昭和 40 年度	3	勘定御門西部
昭和44年度	22	岡口門
昭和 50 年度	10	砂の丸西
昭和 52~54 年度	13	砂の丸南
昭和53年度	2	吹上口南部
昭和54年度	14	不明門入口
昭和 55 年度	4	砂の丸北西
昭和 55 年度	12	西堀南
昭和 56 年度	5	砂の丸北西
昭和 57~58 年度	7	砂の丸北西
昭和 58~59 年度	8	砂の丸北西

修理年度	No.	修理箇所
昭和 59 年度	6	砂の丸北西
昭和 59 年度	9	砂の丸西
昭和 59~60 年度	11	砂の丸西
昭和61年度	20	表坂登り口
昭和 62~63 年度	17	裏坂登り口
平成2年度	24	東堀東
平成 6~7 年度	21	表坂登り口東面石垣
平成 8~9 年度	19	天守一の門南面石垣
平成 10 年度	18	裏坂登り口西面石垣
平成 12 年度	23	東堀南
平成 13~14 年度	16	御橋廊下基礎
平成 23~24 年度	15	勘定御門東部

#### 5. 公園施設整備の状況

和歌山公園内にあった公的施設の内、中消防署、消防局庁舎及び水道局分室、県立図書館、県立博物館分室、ラジオ塔は、既に撤去または公園外に移設している。市役所南別館は、耐震改修の上、歴史展示、観光案内、土産販売、そして管理事務所の機能を備えた「わかやま歴史館」として平成27年度にリニューアルオープンした。2階の歴史展示室は、和歌山城に関する貴重な実物資料を展示・公開できる環境を整え、最新の映像技術を駆使して和歌山城の魅力を発信するガイダンス施設となっている。

天守閣への登閣者は、近年増加傾向にある。ただし、再建から 60 年近く経ち、内部の展示設備も含めて老朽化が進んでいる。天守閣と同時に整備された天守下の段の売店(無料休憩所)も老朽化が著しく、早急な対応が求められる。

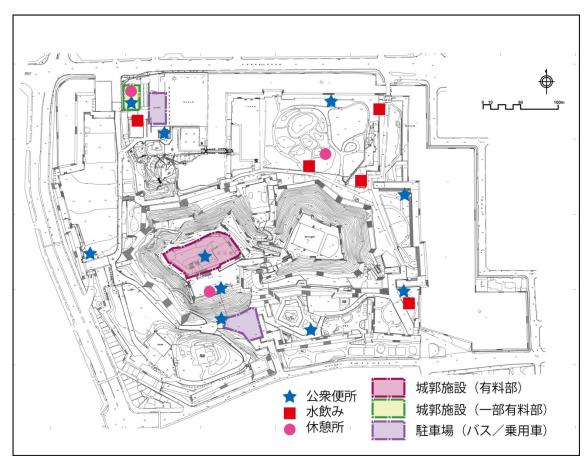
砂の丸北部・西の丸の多目的広場は、様々な市民イベントに活用されている。南の丸の動物園は、年間6~8万人程度の入園があり、市民生活の中に溶け込んでいる。しかし、厩舎は老朽化し、動物の飼育環境も良好とはいえない。市民の意向を踏まえながら、今後のあり方を検討する必要がある。

公衆便所は公園内に計 10 箇所あり、西の丸・わかやま歴史館・不明門において多機能トイレが新たに整備された。処分制限期間を過ぎた便所については、建て替え等の対応が求められる。

公園内の園路については、観光動線上の園路は土系舗装での整備を進めているが、管理 用車両等が通行する箇所では、黒アスファルト舗装となっている。

屋外の史跡案内については、パンフレットや案内看板の刷新が近年進められている。

平成 27 年度には、多言語表記でデザインを統一した誘導看板を新たに整備した。さらに、平成 28 年度には凸版印刷株式会社が開発した AR(拡張現実)システム「ストリートミュージアム」に参入し、わかやま歴史館で公開している和歌山城の VR(ヴァーチャル・リアリティ)映像を、スマートフォン・タブレット等を用いて屋外で楽しむことができるようになった。情報技術を駆使した史跡ガイダンスの取り組みは、今後ますます充実していくものと予想される。



■図-20 公園施設現況位置図

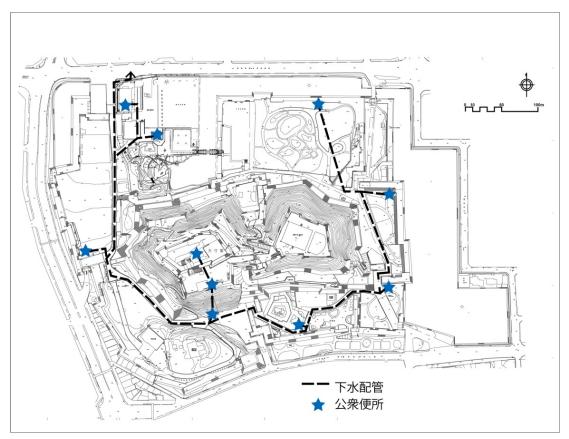
# 和歌山公園内の公衆便所

設置場所	設置年度	経過年数	処分制限期間
天守郭	昭和 33 年度	58年	50年
天守下の段	昭和 33 年度	58年	24 年
西の丸	平成9年度	19 年	24 年
西の丸	平成 27 年度	_	_
(わかやま歴史館内)			
砂の丸	昭和 53 年度	38 年	50 年
蔵の丸	昭和 53 年度	38 年	50 年
南の丸	昭和 45 年度	46 年	50 年
二の丸	不明	_	50 年
不明門	平成 26 年度	2年	50 年
岡口門	不明	_	50 年

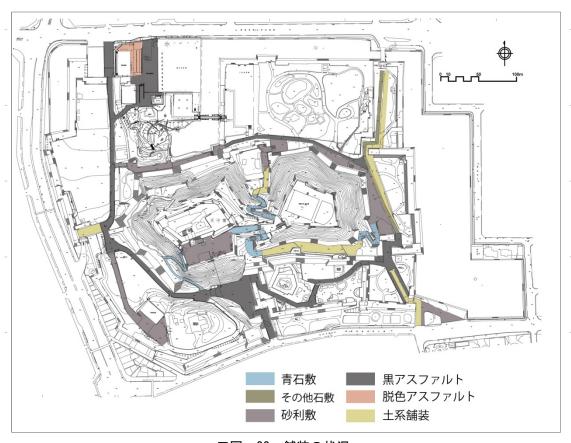
## 公衆便所穴数

設置場所	女性用				男性用			身障者用		
	和式	洋 式	温水洗浄	小人用	和式	洋 式	温水洗浄	小用	洋式	温水洗浄
天守郭	2		2	1			2	4		
下の段	1		①		1			2①		
西の丸	5		1	1	1		1	5①		2
わかやま			6				5	3 ③		1
歴史館										
砂の丸		1			1			2		
蔵の丸	1				1			2		
南の丸	1		2	1	1		1	2		
二の丸	2		1		1			4		
不明門	1		2		1		①	2①		1
岡口門	4				1			4①		1
計	17	1	15	3	8	0	10	37	0	5

<sup>※○</sup>数字は手摺付、和歌山公園西の丸の身障者用は男子用・女子用に各 1



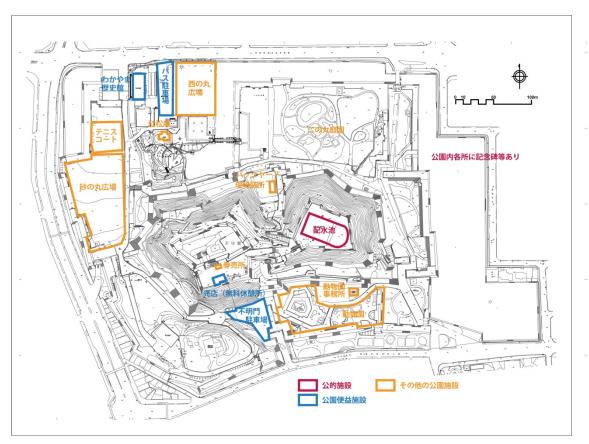
■図-21 下水及び公衆便所の配置



■図-22 舗装の状況

# 和歌山公園の利用状況

	丁卢明	2014年南丁	<b>科</b> 加国	紅丸	公庵	駐耳	巨場
	天守閣	御橋廊下	動物園	点出し	専用使用	不明門	観光バス
			(人)	(人)	(件)	(件)	(件)
平成 18 年度	155, 786	38, 325	65, 840	9, 256	50	55, 856	2, 752
平成 19 年度	167, 787	77, 754	69, 530	9, 878	48	57, 142	3, 146
平成 20 年度	193, 039	66, 868	65, 060	8, 214	51	56, 987	3, 303
平成 21 年度	177, 316	60, 661	71, 880	5, 622	48	60, 519	2, 400
平成 22 年度	160, 063	57, 892	62, 045	7, 351	59	58, 704	2, 502
平成 23 年度	159, 409	51, 627	48, 475	7, 432	90	55, 409	1,960
平成 24 年度	195, 330	67, 663	56, 180	8, 549	58	61, 181	2, 533
平成 25 年度	189, 497	61, 102	51,800	7, 511	65	59, 529	3, 392
平成 26 年度	202, 889	61, 235	82, 810	7, 626	69	61, 346	4, 625
平成 27 年度	233, 102	84, 786	103, 396	9, 917	58	64, 043	5, 720



■図-23 土地占用状況

# 公共的施設

名称	所有/管理	設置場所	現状
中消防署	市消防局	吹上口	移転
消防局庁舎及び水道局分室	市消防局、市水道局	吹上口	移転
観光物産センター棟		西の丸西部	撤去
県立図書館	県		移転
県立博物館分室	県		移転
配水池	市水道局	本丸御殿内	平成 40 年頃移 転予定
ラジオ塔	城 ※		移転
記念碑等	城	公園内各所	

<sup>※</sup> 和歌山城整備企画課

# 便益施設

名称	所有/管理	設置場所
バス駐車場	城/文スポ ※	西の丸
不明門駐車場	城/文スポ	不明門
市役所南別館(わかやま歴史館)	城	西の丸
売店(無料休憩所)	城/和歌山市名産土産品協会	天守下の段

<sup>※</sup> 公益財団法人 和歌山市文化スポーツ振興財団

# その他の公園施設等(公衆便所を除く)

名称	所有/管理	設置場所
西の丸広場	城	西の丸東側
砂の丸広場	城	砂の丸北側
テニスコート	城	砂の丸北側
動物園	城	南の丸
動物園事務所	城	南の丸
紅松庵	城(紅松庵運営委員会)	西之丸庭園
二の丸庭園	城	二の丸
券売所	城/文スポ	天守下の段
バックヤード・現場詰所	城	裏坂下

### 6. 景観調査―天守郭を中心とした「見え」の解析

景観に係る現地調査は、平成27年度に平成7年調査と同地点で実施した。全般的に樹林 の高林化により眺望が悪化しているところが多く、樹木の伐採、間引き、剪定による管理 が必要と考えられる。扇の芝については、歴史的景観を復元し城の縄張りを明確化するこ とで新たな景観ポイントとして位置付け、整備に向けた事業推進が必要である。

#### 1) 近景の現況

### (1) 北西交差点(けやき通り×国道 24 号)付近







平成27年11月撮影

写真 a:消防署の移転、樹木の間引きにより城景観が向上した。

### (2) 国道 24 号沿い



国道24号西堀沿い(写真 b)



平成27年11月撮影



国道24号追廻門南一帯(写真 c)



平成27年11月撮影

写真b:大きな景観変化は見られない。

写真 c: 建物に変化は見られないが、後背の高石垣にツタ類が繁茂し石垣が見えない。

## (3) 南西交差点(国道 24 号×三年坂通り)付近





平成27年11月撮影

写真 d: 乱雑な建物景観は変わりなく、街路樹、後背の樹木が生長している。 扇の芝一帯が整備されれば良好な城景観のポイントとなる。

## (4) 三年坂通り沿い



県立近代美術館前より(写真e)



平成 27年 11 月撮影

写真 e: 街路樹及び石垣前の低木類が生長し、石垣の視認性が低下している。

# (5)岡口門周辺



岡口門前広場(写真f)



岡口門-岡公園間の交差点(写真g)





平成 27年 11 月撮影

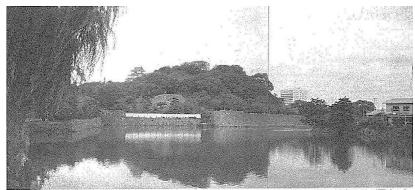


平成27年11月撮影

写真 f: 右手のクロマツが生長し、岡口門が見えにくくなっている。

写真 g: 街路樹が生長し、石垣や天守閣が見えにくくなっている。

# (6) 南東交差点付近



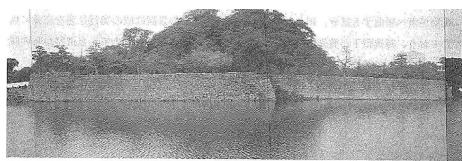
東堀対岸より(写真 h)



平成 27年 11 月撮影

写真 h: 本丸・岡口門枡形・蔵の丸の緑に大きな変化は見られない。岡口門附土塀の 漆喰の汚れが目立つ。

## (7)城東:堀端通り沿い



東堀対岸(検察庁前)より(写真i)



平成27年11月撮影

写真 i: 蔵の丸・下の丸の緑に大きな変化は見られない。石垣天端のクロマツが生長している。

# (8) 一の橋交差点一帯



—の橋交差点(写真 j )



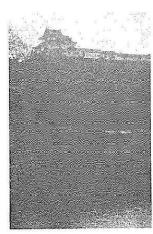
平成 27年 11 月撮影

写真 j: 乱雑であったバス停周辺は一定度整理されている。

## (9) けやき通り沿い



伏虎中学校前より(写真k)



北堀屈曲部より (写真1)



平成27年11月撮影



平成27年8月撮影

写真 k:大きな景観変化は見られない。

写真1: 御橋廊下が整備され良好な城景観が形成されている。

## 2) 中~遠景の現況

## (1)中景

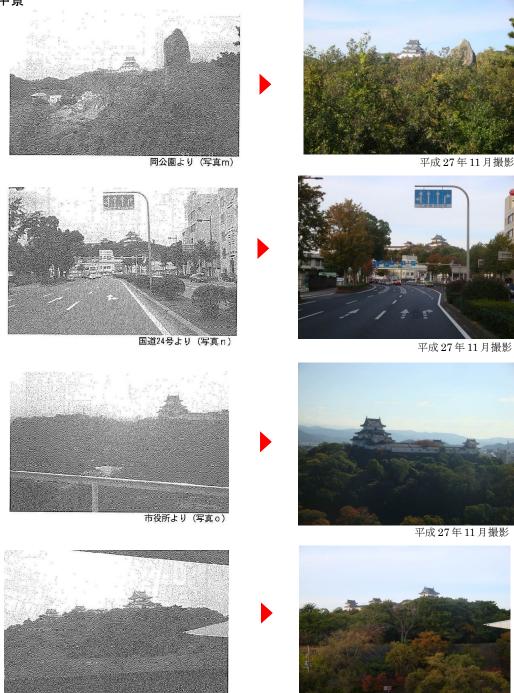


写真 m: 天妃山の山頂で樹木が繁茂し、天守閣が見えにくくなっている。

写真 n: 大きな景観の変化は見られない。

写真 o: 山肌の樹木が生長し、石垣が見えない箇所がある。

県立近代美術館テラスより(写真p)

写真 p: 山肌と砂の丸の樹木が生長し、天守閣の眺望を妨げている。

平成27年11月撮影

# (2)遠景

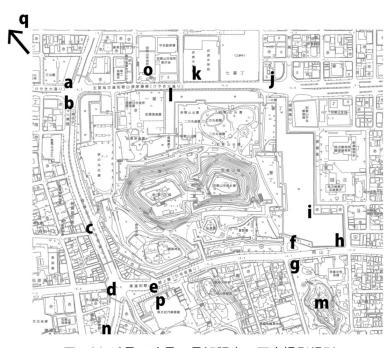


青岸橋より(写真q)



平成 27年 11 月撮影

写真 q: ビル等が建ち並んで都市化が進み、ランドマークとしての視認性が低下している。



■図-24 近景~遠景の景観調査の写真撮影場所

## 3) 城内景観の概況



鶴の渓:景観に大きな変化は見られない。 表 坂:景観に大きな変化は見られない。

二の丸より:山肌の樹木が生長し、天守台の石垣がほとんど見えない。

西の丸より:山肌の樹木が生長し、天守台の石垣が見えにくい。

平成27年11月撮影

#### 7. 整備課題の抽出

平成 7 年の史跡和歌山城整備計画の策定以降、官公署施設など幕末期にはなかった施設の移転を進めた。また、整備を目的とした発掘調査を重ね、城の歴史や人々の生活ぶりを示す痕跡を数多く見出した。石垣修理を中心に、現存する遺構の保全にも継続的に取り組んできた。和歌山城の文化財的な価値を尊重し、遺構の保全と整備のための基礎調査を並行して進めてきたことがうかがえる。

一方、新たな見所の整備は御橋廊下(平成 18 年)にとどまり、当初のスケジュールに 比べると大幅な遅れが認められる。市の財政や推進体制の問題に加え、整備のための基 礎調査・検討に時間を要したことも要因として考えられる。学術的な検討の過程をしっ かり踏みながら、史跡の保全と活用を並行して進め、和歌山城の魅力を高めていくこと が重要である。

和歌山市の関連上位計画は、和歌山城をまちのシンボルとして位置づけ、城と一体でまちづくりを推進する方向性を打ち出している。和歌山城は、近世以降のまちの歩みを象徴し、和歌山市域の個性豊かな歴史を物語る文化遺産である。したがって、和歌山城が和歌山市の魅力づくりに果たす役割は非常に大きいと言えよう。

近年、周辺の交通網の整備が飛躍的に進み、和歌山城を訪れる観光客数は増加傾向にある。とりわけ、関西国際空港でのLCC(格安航空会社)の普及に伴い、多くの外国人が和歌山城を訪れるようになっている。こうした多様な観光客を受け入れ、城の魅力をわかりやすく伝える工夫がますます必要となっている。このような観点に立ち、和歌山城の整備を推進していく。以下、主な整備課題を指針ごとにまとめる。

## 1) 遺構整備の主な課題

現在の和歌山城では、昭和33年に整備された天守閣が主要な見所となっている。しかし、整備から60年近く経ち、老朽化が進んでいる。また、東南海・南海地震が今後非常に高い確率で発生すると予測されることから、耐震性の確保や災害時の安全対策が必要である。

幕末期の和歌山城では、虎伏山北の二の丸・西の丸に政治・生活・文化などの諸機能が 集約されていた。しかし、そのことを現地で理解できるように整備がなされているとは 言いがたい。既に二の丸西部では、8ヶ年に及ぶ発掘調査が行われ、大奥の生活実態を 物語る貴重な成果が出ている。こうした遺構の保全・活用を中心に、城の実質的な中心 と言える北麓のエリアをどのように見せるかが課題となっている。

和歌山城の内郭を画する水堀と石垣は比較的良好に残り、城門や門の痕跡も現地で見ることができる。しかし、北西の吹上口を構成する堀の一部は埋め立てられ、石垣の一部は失われた。また、南西の扇の芝は市街地化が進み、屏風折れの石垣を間近に見ることができない。城全体の縄張を明確化するために、これらの整備が必要である。また、現存する城門などは老朽化が進んでおり、保全のための措置が求められる。

#### 2) 公園施設整備の主な課題

和歌山城には、近世城郭の遺構が良好に残されており、史跡全体が、近世和歌山の歴史に触れ、学習することができる教養施設と言える。しかし、現状では天守閣のみで見学を終えるパターンが多く、和歌山城の歴史的価値が周知されているとは言いがたい。和歌山城を中心とした歴史の広がりを伝えるガイダンス施設を拠点に、城内各所の見所に来城者を誘う仕組みを整えることが必要である。

和歌山城を訪れる観光客は増加傾向にあることから、観光客をはじめとする来城者サービスに対応した施設整備が求められる。来城者に城内をじっくり散策してもらうためには、一定の休養施設や便益施設が必要であり、軽飲食、土産品提供などの観光ホスピタリティ機能も検討する必要がある。これらの施設整備にあたっては、バリアフリー、ユニバーサルデザインの観点も考慮する必要がある。ただし、上記の整備は城の遺構と景観の保護を前提に行わなければならない。

現在、砂の丸北部・西の丸北部は多目的広場として様々な市民イベントに活用されている。砂の丸広場は防災時の避難所にも指定されており、防災の観点からも重要なオープンスペースである。こうした都市公園としての側面も勘案しながら、多目的広場の面積や配置について検討する必要がある。城の遺構を適切に保全し、公園の管理を日常的に行うためには、管理事務所やバックヤードなどの機能が一定度必要となる。これらは、遺構の残存状況や観光客の動線に配慮し、適切な規模と配置を検討しなければならない。

#### 3) 景観整備の主な課題

景観整備においては、遺構整備に合わせて城らしい風格ある景観の整備を進めるとともに、公園施設の意匠や形態を歴史的景観になじむように改善していくことが重要である。 虎伏山の斜面樹林地は、市街の緑地景観の中核をなしている。一方で、繁茂しすぎた樹木が天守閣や石垣の眺望を妨げ、外来種やソメイヨシノなど幕末期にはなかった樹木の 処置も問題となっている。在来種を中心に樹林の保全・育成を図りつつ、遺構の保護を 優先して適切に管理する必要がある。 第2章 整備計画

### I. 整備目標

現行計画は、「史跡和歌山城一帯は今後とも史・資料の収集や発掘調査などを行い、必要なものについては最小限の復元ないし復元的整備を考えつつ、残された歴史・文化遺産を保全、活用し、風格ある歴史環境の創出を図る」ことを整備主題とし、以下の3点を整備目標に掲げている。

①歴史・文化の拠点づ	和歌山の歴史・文化の継承、創造の場としての保全活用を図り、情報発信の
< 0	拠点となることをめざす。
②市民・観光客の憩い	親しまれ、愛される城空間として、市民が憩い、学び、体験する場づくりを
の場づくり	図るとともに、歴史文化の観光拠点づくりをめざす。
③自然空間の保全・育	都市の中の水緑のオアシス、さらに都市の緑の景観づくりの中核として、堀
成	水ならびに樹林環境の保全・育成・創出を図る。

上記の目標設定は、史跡であり、都市(緑地)公園であり、観光地でもある和歌山城に 適合的であることから、本計画においてもこれを踏襲する。

その上で、近年の学術調査の成果を踏まえて、和歌山城固有の魅力を追求することを本計画では重視する。すなわち、城の実質的な中心であった北麓の遺構整備を進め、近世大名の生活文化を体感できる城として価値づけを図る。さらに、山上に天守閣と御殿が並び立つ独特な構造や、水堀と石垣で構成される内郭ラインを明確化し、城全体の景観を整える。かつての壮大な城の姿やそこでの人々の営みに思いを馳せることができるように、ソフト・ハードの両面を組み合わせて効果的な整備を行う。

和歌山城は、市民が憩い、国内外の多くの観光客が集う場であることから、多様な来城者の目線に立ち、安全で快適な散策を保証することが重要となる。城内の諸施設については、日常的な維持管理を徹底し、地震等の大規模災害に備えて必要な措置を講じる。また、公園・観光地として必要な休養・便益機能を、城の遺構や景観の保全を前提に整備する。来城者を城内各所の見所に誘い、じっくり散策できる歴史公園としての整備を目指す。

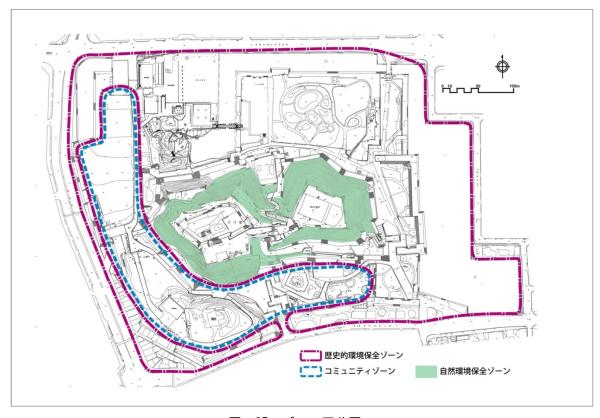
# Ⅱ. ゾーニング

現行計画では、計画対象範囲を以下の3つのゾーンに分け、それぞれの特性に応じた整備を検討している。

名称	範囲	性格	整備の方向性
①歴史的環境	天守・本丸・二の丸・	歴史的遺構など	それら遺構などの保全・復元・修築などの整備を主とし、
保全ゾーン	西の丸・吹上口・下の	が多く存する	歴史的環境を形成する核としての整備を図る。
	丸・蔵の丸・岡口門枡		復元的に整備した施設などは、歴史的・文化的な教養施
	形、東西南北の各堀		設などとして活用し、来訪者の利便に資する。
②コミュニテ	砂の丸・南の丸	歴史的遺構など	歴史公園・近隣公園といった位置づけがなされている整
ィーゾーン		が比較的少ない	備対象地の中で、主として市民等の憩いの場としての整
			備を図る。
③自然環境保	天守・本丸を除く帯曲	幕末期から斜面	市街地の中の緑のランドマーク、緑のオアシスとして樹
全ゾーン	輪一帯	樹林地として存	林地の保全育成を図る。
		している	

このゾーニングは、先にみた三つの整備目標と対応し、史跡和歌山城の複合的な性格を 踏まえて設定されている。そのため、本計画でもこのゾーニング設定を概ね踏襲する。

ただし、扇の芝については、将来的に史跡として整備することを視野に入れ、歴史的環境保全ゾーンに位置づける。あわせて、砂の丸の石垣も歴史的環境保全ゾーンに組み入れ、水堀と同様に内郭を区切る防御ラインとして整備・活用を図る。



■図 - 25 ゾーン区分図

### Ⅲ. 遺構整備計画

和歌山城の縄張は、虎伏山を中心に構成される。和歌山城では、山の上に天守閣や本丸御殿といった城を象徴する施設が建ち、北麓に生活文化の拠点となる御殿などがあった。

城の基礎をなす石垣や水堀はよく残っており、風格ある城景観を形成している。これらの遺構を良好な形で保全しながら、かつての壮大な城の姿を現地で体感できるように整備を行う。

#### 1. 山上の象徴性の向上

かつて虎伏山の山上には、天守閣と本丸御殿が並び建ち、和歌山城固有の景観を演出していた。これらの施設は日常的に使用されるものではなかったが、城のシンボルとして維持・管理された。

江戸期の建物は山上には現存せず、戦後に外観復元された天守閣が新たなシンボルとなっている。本丸には、大正期に上水道配水地が整備され、旧状が大きく損なわれている。 こうした現状を踏まえ、天守郭と本丸の整備を可能なところから一体で進め、象徴的な城景観の整備を目指す。

### 1) 天守閣の整備

現在の天守閣は、江戸時代 の絵図や古写真等に基づき、 鉄筋コンクリート造(一部木 造)で整備されたものである。 しかし、再建から 60 年近く



天守閣の現状

経ち、屋根や外壁等の老朽化が進み、耐震強度の面でも検討が必要となっている。内部 の展示施設なども老廃化しており、展示方法とともに改善の必要がある。

現行計画では、天守閣は木造で再建されることになっている。しかし、再建には多額の費用を要するため、早急に着手するのは困難である。現在の天守閣は、市民の寄付を受けて整備され、戦後復興のシンボルとして長く親しまれてきた。こうした経緯を踏まえるならば、将来的な木造再建の方向性を視野に入れつつも、まずは現天守閣の長寿命化を図るのが望ましいと考えられる。

現天守閣は、年間約20万人の観光客を迎える施設であることから、来城者の安全を確保するため、地震等の災害への備えが不可欠である。そこで、早急に耐震診断を実施し、診断結果に基づき、必要な補強工事を施す。その際には、石垣等の遺構保護を前提に整備を行うこととする。

一方で、関連資料の収集・分析を通じて、江戸後期の天守閣のイメージを具体化していくことも重要である。こうした基礎的な研究を蓄積し、展示や講座等の普及啓発を進めながら、木造復元に向けて長期的に検討していく。

#### 2) 本丸の整備

現在の本丸には、上水道の配水池があり、 立入りができない状況である。配水池の移転 がなされるまでは、入り口部分を一部開放し、 天守閣を見せるビュースポットとして整備す る。

現在の配水池は、平成40年頃には移転が予定されている。そのため、将来的な整備に向



大天守より本丸の跡地を望む

けて文献・絵図等の基礎調査に取り組む。配水池の移転後は、嵩上げされた石垣を撤去 した上で、御殿の配置を地表面に表示し、松の丸に移設された七福の庭(旧本丸中庭の 遺構)をもとの位置に戻す。これにより、江戸時代の本丸の構造を理解でき、天守閣等 を望める展望休憩広場として整備する。

なお、光恩寺(和歌山市大垣内)に移築された旧本丸台所を旧位置に戻す方針が現行 計画で示されている。これについては、光恩寺での利用実態などを踏まえながら、長期 的に検討する。

### 2. 麓の見どころ整備

北麓の二の丸・西の丸は、和歌山城における生活文化の拠点であり、実質的な城の中心であった。 それぞれの機能的な特色が分かるように整備を施し、既に復元されている御橋廊下と一体で活用を図る。



復元された御橋廊下

#### 1) 二の丸の整備

二の丸の整備は、幕末期における和歌山城の「政治・居住空間の現出」を基本テーマとし、次のように進める。

#### (1)大奥の整備

二の丸西部の大奥は、藩主の私邸であり、奥女中たちの生活空間であった。すなわち、城内で最もプライベートな生活の実態に迫ることができる空間と言え、居住の側面にスポットをあてた整備が重要となる。

整備にあたっては、発掘調査で検出された地下遺構(庭園・石組溝・井戸・穴蔵・ 浅野期石垣など)の保全・活用を最優先に考える。それぞれの遺構の状況に応じて、 盛り土を施した上での復元、露出での展示などふさわしい手法を検討し、できるだけ 「見せる」整備を行う。 また、長局を中心に建物の一部を復元的に整備し、検出した遺構・遺物の理解に資する施設として活用を図る。すなわち、内部に出土遺物や関連資料などを展示し、来訪者が大奥という場の性格を理解できるようにする。あわせて、整備した遺構を建物から見学できるようにし、殿様や奥女中らの目線で庭園などの雰囲気を楽しんでもらえるように工夫する。これにより、かつて存在した建物との関係で遺構の意義が理解できるように活用を図る。

#### (2)表・中奥の整備

二の丸東部の表は、藩の政治や儀礼が行われた場所である。明治 18 年 (1885) に大 広間などが大阪城へ移築され、「紀州御殿」と呼ばれた。紀州御殿の写真は豊富に残さ れており、往時の御殿の姿を知ることができる。そこで、関連資料の収集・分析を進 め、発掘調査で遺構を確認した上で、大広間一帯の御殿の復元整備を検討する。

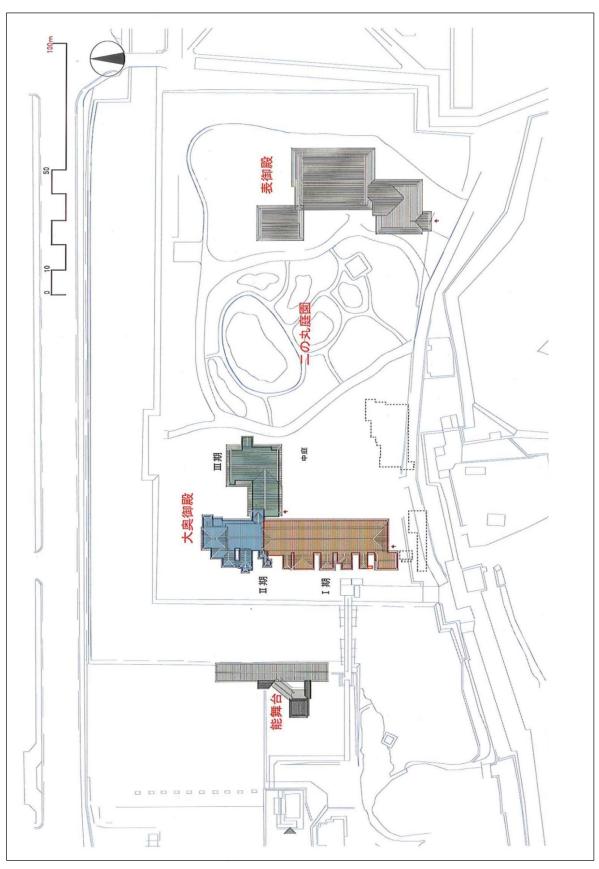
表・大奥の間に位置する中奥には、藩主の公邸などがあった。中奥については、表 御殿の整備に合わせて、建物配置を平面的に示し、かつての御殿の広がりがわかるよ うに整備する。その際、現在の園路や庭園は、城本来の構造を理解する妨げとなるの で、整理することを検討する。

#### 2) 北辺櫓群の復元

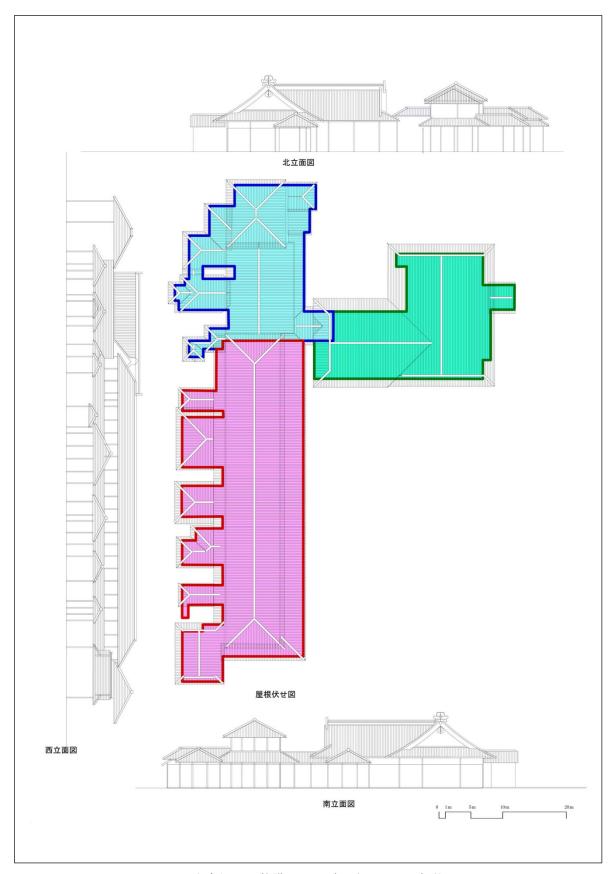
二の丸の北辺には、東から順に月見櫓・物見櫓・駿河櫓が建ち、土塀と多門でつながっていた。これらの櫓群については、絵図や写真などでその様相を知ることができる。平成 10 年 (1998) の発掘調査では、櫓に伴う礎石などの遺構が検出されている。こうした成果を踏まえて、櫓群を木造で復元し、城らしい景観の整備を目指す。その際、基礎石垣の安定性が問題となることから、石垣の解体修理も視野に入れて長期的に検討していく。(『史跡和歌山城二の丸北辺櫓等復元整備 基本計画報告書』和歌山城管理事務所、1999 年)



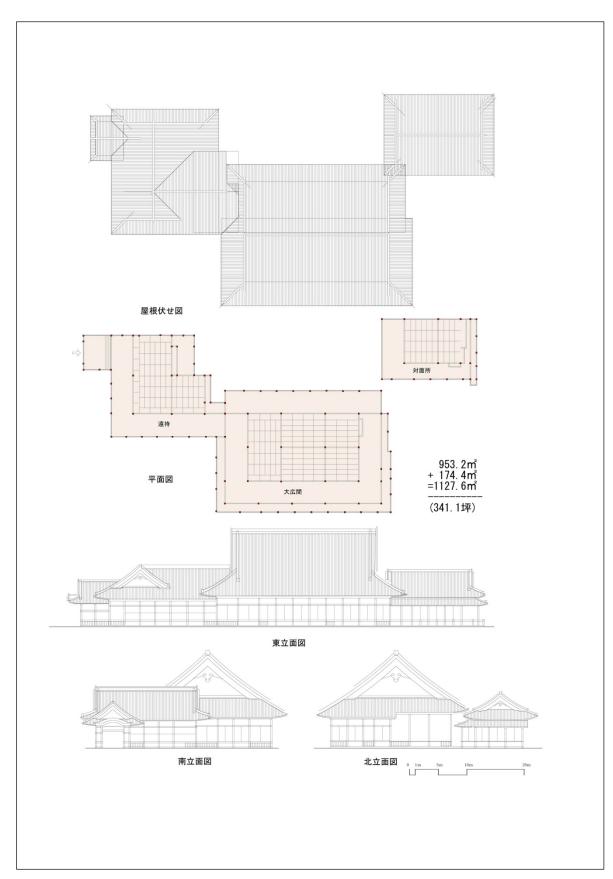
北辺の櫓群(右から駿河櫓・物見櫓・多門)



■図-26 二の丸・西の丸の整備イメージ



■図-27 大奥御殿の整備イメージ 立面図、屋根伏せ図



■図-28 表御殿の整備イメージ

#### 3) 西の丸の整備

江戸時代の西の丸には、能舞台や茶室があり、和歌山城における武家文化の中心であった。 西之丸庭園は、近世初期に作庭された大名庭園であり、かつての西の丸の佇まいを今に伝えている。西の丸の跡地は現在、観光バス駐車場、多目的広場となり、かつての城内での 役割が理解しにくくなっている。そこで、西の丸を象徴する能舞台の整備を行い、城内の 文化的な拠点として活用を図る。

### (1)能舞台の整備

発掘調査で遺構を確認した上で、能舞台と付属の鏡の間・楽屋の復元整備を行う。実際に能を演じることが可能な形で整備し、能楽など日本の伝統文化に触れる場として活用を図る。

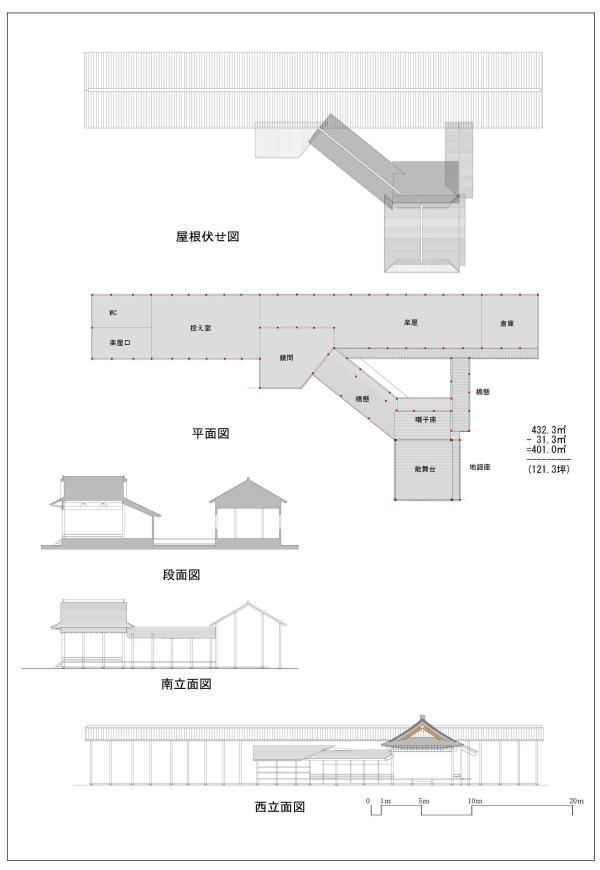
## (2) 西之丸庭園の整備

西之丸庭園は、二の丸大奥で検出された庭園遺構と合わせて、城内庭園の多様性を示す遺構として、今後その重要性が高まるものと考えられる。

ただし、昭和40年代の復元整備により、亀石など庭の重要な構成要素が除去され、庭園の構造が改変されたことが判明している。江戸後期の絵図と現状との対比を行い、昭和期の整備を再検証した上で、再整備を図る必要がある。



庭園池から鳶魚閣、御橋廊下を眺める



■図-29 能舞台整備イメージ

# 3. 縄張の明確化

城の輪郭を構成する堀や石垣、城門などの整備を行い、縄張を明確化する。具体的には、吹上口・扇の芝の整備、西堀・南堀の復元が主な課題として挙げられる。

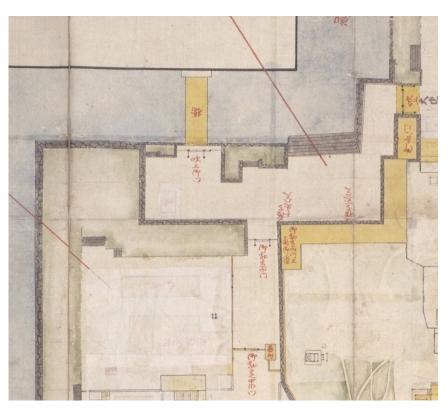
## 1) 吹上口の整備

吹上口は、和歌山城の北西に位置し、城下町と「三の丸」に通じる門を持つ巨大な枡 形虎口である。吹上口の東部には雁木(石段)が設けられ、物資の搬入が行われた。し かし、吹上口東部と北面の石垣は失われ、前面の西堀も埋められ、かつての姿がイメー ジできなくなっている。そこで、ゲート空間として往時のイメージの再現整備を図る。

吹上口西部(旧消防署跡地)では、発掘調査でかつての堀や橋掛かりの遺構が既に確認されている。その成果に基づき、平面的な整備をまず施す。

吹上口東部については、わかやま歴史館の機能を二の丸大奥等に移設した後に、発掘 調査を行い、失われた石垣などの遺構を確認する。その上で、石垣・堀の復元を含めた 全体的な整備を行い、吹上口の形状を示す。

なお、西之丸庭園北西部の切通しは、吹上口の全体的な整備に合わせて塞ぎ、往時の アクセス道の整備を図る。



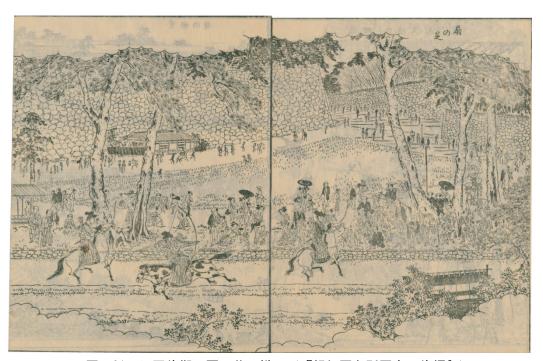
■図-30 江戸後期の吹上口(「和歌山御城内惣御絵図」)

### 2) 扇の芝の整備

扇の芝は、和歌山城の南西に位置する扇型の空閑地である。近代以降、住宅や店舗などが建ち並び、南西方向からの城の眺望が阻害されている。

そこで、国史跡への追加指定を視野に入れ、かつての芝地景観の整備を目指す。整備が 実現すれば、屏風折れの高石垣を堀を挟まずに間近で鑑賞できるようになり、城の景観が 大いに向上するものと期待される。

なお、本事業の推進にあたっては、地域住民との合意形成が不可欠となる。



■図-31 江戸後期の扇の芝の様子(『紀伊国名所図会 後編』)

## 3) 堀の復元

内郭を区切る水堀は比較的よく残っているが、西堀の一部で埋め立て・改変がなされ、 北堀の北部が埋められた。かつて水堀であった南堀も大正期に埋め立てられ、現在は堀 の痕跡をわずかに残すのみとなっている。

そこで、西堀の東側については、吹上口の整備に合わせて復元を検討する。

南堀跡は現在、つつじ園として活用されているが、堀の復元を長期的に検討する。それまでの間、水堀であった頃の様子を示す絵図や古写真などを用いて、来城者にかつての姿を知ってもらう工夫を検討する。

#### 4. 遺構・既存施設の整備

和歌山城には、石垣・雁木などの遺構が良好に残されている。建築物としては、岡口門・附土塀、追廻門、井戸屋形が江戸時代より残る。これらは、史跡の本質的価値を構成する要素であり、今後も大切に保全していかなければならない。復元された建築物も、史跡の理解に資するものとして適切に維持・管理する必要がある。

#### 1) 石垣・雁木の保全

和歌山城には、石種や積み方の異なる多様な石垣が良好に残されており、縄張が拡張 する過程を現地でたどることができる。したがって、できるだけオリジナルな形で保全 を試みるとともに、その歴史的価値を周知する工夫が必要となる。

そのためには、日常管理を徹底して、石垣の劣化を促す要因(樹木や草など)を極力除去するよう努める。石垣カルテに基づき、崩落の危険性が高い石垣の現状を写真・測量図などで記録し、不測の事態に備える。その上で、崩落の危険度や来城者に及ぼす影響を考慮して、修復が必要なものについては順次修復を行っていく。この時、石垣の状況に応じて適切な修復方針を検討する。勘定門東側石垣で実施した保護工事も有効な選択肢と言えよう。

なお、修復時に取り外した石材のうち、年代や構築技法の特質を示す重要なものは適切に保管し、展示等の公開活用の方法を検討する。

切通し部分(西之丸庭園西側石垣と勘定門櫓台石垣)は、本来、一続きの石垣であった。 しかし、明治期に和歌山中学校が西の丸跡に建設され、中学校と砂の丸を結ぶアクセス 道の整備に伴い石垣は分断され、現在では和歌山公園駐車場(観光バス)から鶴の門を通 り和歌山城を回遊する主なルートとして活用されている。これらの役割が終了した時点 では、切り通し部分の旧状の調査と復元をめざすことも必要である。

#### 2) 建築物の維持・管理

江戸時代より残る建築物のうち、岡口門・附土塀の修理が喫緊の課題となっている。昭和35年の解体修理以来、大がかりな整備がなされず、老朽化が顕著である。特に附土塀は、基礎石垣の解体修理を含めた抜本的な対策が必要である。

この他の建築物についても、日常的な維持・管理を徹底し、状況に応じて適切



老朽化が進む岡口門附土塀

な措置を講じることが求められる。さらに、解体修理や復元などの整備後、一定期間が 経過した建築物については、瓦の葺きなおしや漆喰の塗り替えなどの修繕を行い、長寿 命化を図る。

## Ⅳ. 公園施設整備計画

教養施設、便益施設、管理施設等の公園施設は、地下遺構の保護を前提に、城の歴史的な景観に調和するように配置・形態・色彩等に留意して整備を進める。遺構整備を行わないエリアは、市民や観光客の憩いの場となるオープンスペースとして活用を図る。 幕末期にはなかった施設については、景観を阻害する要因を取り除き、規模の縮小を図りつつ、城外への移転について長期的に検討していく。

### 1. 教養施設

和歌山城には、近世城郭の遺構が良好に残り、江戸期の和歌山の歴史を学び、体験できる場となっている。その意味では、和歌山城全体が一つの教養施設と言える。和歌山城のこうした歴史的価値を周知するため、ガイダンス施設の適正な規模と配置を検討する必要がある。

現在、和歌山城のガイダンス展示は、天守閣とわかやま歴史館で実施している。しかし、天守閣内は温湿度管理ができないため、実物資料の展示・保管場所としてふさわしくない。また、わかやま歴史館は吹上口の内部に建ち、史跡の活用上好ましい立地とは言えない。

そこで、二の丸大奥で復元的に整備される建物を、中心的なガイダンス施設として位置づけ、天守閣とわかやま歴史館で展示している実物資料を集約させる。天守閣では実物資料の展示を縮小し、映像・模型などを駆使した体験型の展示を充実させる。

#### 2. 便益施設

来城者用の便益施設の内、トイレ・ベンチ・ゴミ箱は、既に必要数を満たしている。 今後、来城者の動向に配慮しつつ、老朽化に応じて順次更新を図ることとする。その際、 歴史的景観に調和するように意匠・素材・形態等に留意する。

休憩所は、来城者の動線を考慮して適切に配置する。和歌山城では、虎伏山の山上と 麓にそれぞれ見所があるため、中心となる休憩所を山上と山下にそれぞれ確保する。

山上の天守下の段には、昭和33年に建築された休憩所があり、売店としても活用されている。この休憩所は、老朽化が著しく、周囲の景観に馴染んでいるとは言いがたい。 そこで、早急に修繕を行い、城景観に調和した意匠に改める。その後、幕末期の建物配

置を踏まえて、新たな休憩所を整備し、 現行のトイレや券売所を統合する。

麓では、わかやま歴史館内に観光土産品センターがあり、小規模な休憩スペースも設けられている。これらの機能は、二の丸大奥で復元的に整備する建物に移設する。



天守下の段の休憩所

このように、山上と麓に中心となる休憩所をそれぞれ整備し、来城者の利便に供する。 そこでは、遺構や城景観の保全を前提に、軽飲食や観光物産などの機能の整備を検討する。

## 3. 管理施設

今後、史跡整備や公園管理を継続的に推進し、きめ細かい対応を維持するためには、現場に目が届く管理施設を確保することが求められる。現在、和歌山城に関する事務所機能はわかやま歴史館に集約されているが、二の丸大奥の整備の中で今後のあり方を検討する必要がある。

また、裏坂下の空間に公園管理のための資 機材置き場と仮設現場事務所を設け、バック



裏坂下のバックヤードの現状

ヤードとして活用している。当地は和歌山城の中では比較的来城者の目に触れにくい場所であり、バックヤードとしては適当な位置である。ただし、現在の仮設事務所は城景観を阻害しており、安全性・耐久性にも問題があることから、常設の事務所の整備を検討する。

#### 4. 多目的広場(コミュニティスポット)

砂の丸北部・西の丸北東部は多目的広場として利用されている。砂の丸広場は、様々な市民イベントに活用され、災害時には避難地としての役割が期待される。このようにオープンスペースの確保が今後ますます求められることから、広場の北に隣接するテニスコート・駐輪場を城外に移転し、広場の拡充を図る。

砂の丸南部には護国神社があり、遺族会・戦友会を中心に毎年多くの参拝がある。多様な草木が成育し、良好な緑地環境を形成しているが、ソメイヨシノが過密化し、石垣に悪影響を及ぼす樹木も見受けられる。そこで、樹木の剪定・伐採などを通じて遺構を保全し、草花を観賞する空間として修景を図る。なお、護国神社の移転については、遺族会、戦友会



砂の丸北部の多目的広場



護国神社入口部

などの意向を踏まえながら、長期的に検討する。

南の丸の動物園は、整備開始から 100年を越え、世代を越えて親しまれ ている。和歌山公園の歴史の中では、 一定のコミュニティ機能を果たして きた施設と言える。しかし、もともと 城郭にはなかった施設であり、今後史 跡の整備を進めていく中でそのあり 方を検討する必要がある。



天守閣や石垣の眺望を阻害する園舎

現在、動物園の園舎やそれを取り囲むフェンスが、背後の石垣の眺望を妨げている。 そこで、フェンス等を極力除去し、城の雰囲気にそぐわない意匠等を改善し、景観の向 上に努める。動物園の移転については、市民の意向を踏まえつつ長期的に検討する。

なお、南の丸北部の石垣際に、発掘調査や石垣整備の過程で出た石材をストックしている。これらは今後の石垣修理等に必要となるが、乱雑に配置され、石垣の側に立ち入ることができなくなっている。これらを整理してオープンスペースを拡充し、背後の石垣を間近に見られるように整備する。

## V. 景観整備計画

既に「Ⅲ. 遺構整備計画」・「Ⅳ. 公園施設整備計画」において、景観面に配慮した計画をまとめた。ここでは、再掲することを避け、植栽整備について述べる。

和歌山城では、随所に豊かな樹木が繁茂 し、城の遺構と一体となって、良好な景観 を構成している。しかし、生長しすぎた樹 木が天守閣などの眺望を妨げ、石垣などの 遺構にも影響を及ぼしている。既存の樹林 の保全・育成を基本とし、遺構の保護、天 守閣等の眺望の確保も視野に入れ、整備に あたることが求められる。

こうした植栽整備を適切に推進するために、樹林・植栽の管理計画を策定する。 そこでは、次のような方針に基づき、緑地



石垣の上に根を張った樹木

環境の維持と城らしい景観の整備を進めることとする。すなわち、在来種を中心に既存の樹木の保全・育成を図り、幕末期の植生を踏まえて適宜補植を行う。城景観を阻害している樹木や、遺構に悪影響を及ぼしている樹木は伐採、剪定する。また、外来種については、その歴史性など(記念樹、学術上の価値等)に配慮し、意義のあるものは残し

ながら樹種更新を進める。現在のソメイヨシノを保全しつつ、ヤマザクラ等の在来種への樹種更新を順次進め、花見スポットの機能を維持する。

なお、上記計画の推進にあたっては、有識者、専門業者を交えた管理体制を構築し、 効果的、計画的に整備を行うこととする。

### Ⅵ. 動線整備計画

整備の各段階において、城内の各所を快適に回遊できる動線を検討し、看板やパンフレット等を用いて来城者に推奨ルートを提示する。案内サインは、平成27年度に整備した誘導看板をベースに、新たな見どころが加わるたびに順次更新していく。これに加えて、パンフレットや電子媒体等を併用し、野外の史跡ガイダンスを充実させる。これらの案内は、外国人観光客にも対応できるように、多言語での表記とする。

二の丸大奥・西の丸能舞台の整備が実現すれば、御橋廊下を経由する麓の動線が明確になる。ここから天守閣や岡口門などの見所を結ぶ動線を設定し、来城者の誘導を図る。

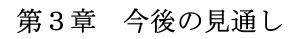
城郭は本来軍事施設であり、一般的な意味でのバリアフリーには馴染まない面がある。 ただし、和歌山城には多様な来城者が訪れることから、遺構の保護を前提に一定の配慮 を行う必要がある。既に和歌山城では、車椅子の来城者向けの登城サポートを実施して おり、表坂を経由して天守閣前まで行くことができる。

麓においては、西の丸のバス駐車場から、北堀沿いの歩道を経由して、大手門から入城できる。また、御橋廊下で助力が確保できれば、西の丸から直接、二の丸大奥に移動することが可能となる。

観光動線上の園路は、概ね土系舗装等での整備がなされている。しかし、管理車両動線上の園路は黒アスファルトで舗装されており、景観を阻害している。これを自然色アスファルトに順次変更し、城らしい景観の整備に努める。



■図-32 動線整備計画図



# I. 段階整備計画

第 2 章で定めた整備事業の実施は長期にわたることが予想されるため、時期区分を以下 のように設定し、段階別に整備の目標を定める。

- · 短 期 平成 29 年~平成 38 年 (2017 年~2026 年)
- · 中 期 平成 39 年~平成 48 年 (2027 年~2036 年)
- ・長 期 平成49年~平成58年(2037年~2046年)
- ・超長期 平成59年~平成68年(2047年~2056年)

短期は、老朽化が進む建造物等を補修しながら、二の丸西部・西の丸を一体的に整備し、 大名の生活文化を体感できる見所の整備を目指す。中期は、既存施設の撤去・解体を見据 え、本丸と吹上口の整備を行い、城全体の景観向上を目指す。長期・超長期は、天守閣や 二の丸御殿・櫓群の復元などの大がかりな整備を課題に掲げ、さらなる魅力向上に努める。 なお、扇の芝については、地域住民との協議に早急に着手し、一定の合意が得られた時 点で整備にあたる。

## 段階別整備目標

	各期に予定する主要な事業
短期計画目標	・天守閣の耐震化、耐震補強、内装・外装整備
	・二の丸大奥の整備
	・西の丸能舞台の整備
	・岡口門附土塀の修理
	・南の丸の景観整備
	・植栽管理計画の策定
	・舗装整備
中期計画目標	・本丸の平面整備
	・吹上口の整備(中期~長期)
	・天守閣前休憩所の整備
長期・超長期計	・天守閣の木造復元
画目標	・二の丸表御殿の復元
	・二の丸中奥の平面整備
	・二の丸櫓群の復元
	・西之丸庭園の整備
	・砂の丸広場の拡充
	・南堀・西堀の復元
	・扇の芝の整備

:::::::::::::::::::::::::::::::::::::::		短期(半成29年度~38年度)	1		,										
整備內容	H29 H30 H31 H32 H33 H34 H35 H36 H37 H38	Н31 Н	32 H3	3 H34	H35	H36	H37 H3	38 H39∼	$\vdash$	H41∼	H41∼ H43∼ H45∼	H45∼	H47~	- 長期(平成49年度~58年度)	超長期(平成59年度~)
耐震診断			ļ.,		ļ										
		ļ	<b>                                     </b>	-					ļ	ļ					
天 内外装の整備			1.	-			4	T							
ず 展示リニューアル			ļ	ļ					4	-					
		4	-  	<del>} -                                   </del>	į	- - -	<b>-</b>			+	}				
木造復元の検討		ļ		ļ											
入口部の整備	Ī			ļ	ļ										
基礎調査			-	<u> </u>		1	~								
			ļ		ļ	<u> </u>			T		,				
丸 嵩上げ部の撤去		ļ	ļ	<u> </u>	ļ	<u> </u>				T					
遺構の平面表示等				ļ			<b> </b>		ļ						
光恩寺庫禅の移設の検討		1	<del> </del>	<u> </u>	ļ		╁┈	L	-						
<b>●</b>		<u> </u>	<u> </u>	ļ	ļ		<del> </del>		<u> </u>	ļ					
基礎調查			H	H			m		+	+	Î				
木浩復元の検討	 	<u> </u>	-	-	ļ		╁	L		<del> </del>					
●		ļ		ļ		<u> </u>									
発掘調査		ļ		ļ	ļ	<u> </u>									
遺構の平面表示				<u> </u>					ļ						
			ļ	ļ			<b></b>		ļ						
の 計画検討	- L - L - L	i		ļ	ļ				ļ						
丸基礎石垣の修理等		T		ļ					ļ						
遺構整備			ļ	ļ	ļ	$\prod$	<u></u>		ļ						
建物の復元的整備				-											
●櫓群		ļ	ļ	ļ	ļ				ļ						
資料収集			-	Ļ			m				<u> </u>				
石垣の保全等			ļ		ļ			Ц	╢	╬					
木造での復元の検討			ļ		ļ	ļ			ļ		,				
●能舞台			ļ						ļ						
資料収集	Ī	ļ		ļ	ļ				ļ						
発掘調査	Ĭ.		Ī	ļ	ļ		<u> </u>			ļ					
西 計画検討			ĹĹ.	+											
の 復元整備							T								
丸 ●西之丸庭園															
資料収集															
発掘調査												_			
再整備の実施															
平面整備 (旧消防署跡)							~~~~								
西の丸西側石垣の修理			ļ	ļ			<u> </u>		ļ						
			-	-			**	-		+					
上わかやま歴史館の解体		ļ		ļ			L.I.	$\prod$	T						
		ļ	<u> </u>		ļ				L		Ī				
発掘調査(切通し)			ļ	ļ											
吹上口の整備				ļ											
										-		•			

		短期(3	F成29年月	短期(平成29年度~38年度)	_	_		中期(平成	中期(平成39年度~48年度)	18年度)			
整備方物	H29 H30	H31 H	32 H33 H	H29 H30 H31 H32 H33 H34 H35 H36	H37	H38	H39∼	H41∼	H43∼	H45∼	H47∼	長期(平成49年度~58年度)	超長期(平成59年度~)
岡 石垣測量	Ī												
計画検討													
· 附土塀解体			Ι					٠		<b></b>			
						_							
五 石垣修理					T								
等建物修理								l	L				
					ļ			·····		<b></b>			
加 南堀整備					ļ			ļ		<b></b>			
天 体憩所の修繕	Ι									h			
守 資料収集			<del>+</del> - +	-+-+-	+-+-								
前新たな休憩所の整備					ļ	L							
●北部								L					
テニスコート、駐輪場の移													
砂 粒板的 參加調本	<u></u>	<u>.</u>				$\perp$		ļ		-	ľ		
	<u>.</u>	-	 		ļ					+			
		-			ļ	$\perp$							
<b>拉非教</b> 佛		-	-			_							
	+	-	- -	- - -		_	†		-				
南 景観整備		-				Ι				~~~~			
丸」バックヤード整理													
裏プレハブ撤去							Ħ	Ī					
坂 発掘調査		i	Ĭ					l	<b></b>				
下 管理事務所の整備			<b>.l</b> .			$\parallel$		Ħ			Ī		
植栽管理計画の策定													
歯林の間引き、剪定						Ī							
報 外来種の樹種更新など						-				}			
ンメイヨシノの保全、ヤマザ クラへの樹種更新等	f					-					_		
扇住民との合意形成		1	. <del>† - † -</del>	<del></del>						}			
の国史跡への追加													
芝 景観整備													
動サイン整備													
整舗装整備										<b></b>			
_									T				
業追回門の補修													
修御橋廊下の補修													

凡例: \*\*\*\*\*\* 維持管理などの適宜実施する事業
---- 発掘調査、資料作成、測量、計画策定などソフト事業
--- 整備事業

# Ⅱ. 整備費概算

# 短期

	数量	金額(千円)	備考
	場所		天守閣
000	1	18 000	
	2,000		小田原城資料より、大規模耐震 エ事、バリアフリーエ事の単価を 適用
		1.538.600	***************************************
	場所		二の丸
830	675.5	560.665	
000			
			***************************************
290	1,122	325,496	小田原城資料など
50	3,800	190,000	
		2,978,761	
	場所		西の丸
80	1,200	96,000	
000	121.3	363,900	
5	1,000	5,000	
		464 000	
		707,300	
	場所		吹上口
	場所		吹上口
30	場所 1,500	45,000	吹上口
			吹上口 短期は1/3を想定
30	1,500		
30 70	1,500 180	12,600	
30 70 830	1,500 180	12,600 587,142	
30 70 830	1,500 180 707.4	12,600 587,142	短期は1/3を想定
30 70 830 80	1,500 180 707.4 場所	12,600 587,142 644,742	短期は1/3を想定
30 70 830 80	1,500 180 707.4 場所 60	12,600 587,142 644,742 4,800	短期は1/3を想定
30 70 830 80 830	1,500 180 707.4 場所 60 1,077.0	12,600 587,142 644,742 4,800 893,910	短期は1/3を想定
30 70 830 80 830	1,500 180 707.4 場所 60 1,077.0	12,600 587,142 644,742 4,800 893,910 1,670 16,350	短期は1/3を想定
30 70 830 80 80 830 670 350	1,500 180 707.4 場所 60 1,077.0	12,600 587,142 644,742 4,800 893,910 1,670 16,350	短期は1/3を想定  岡口
30 70 830 80 80 670 350	1,500 180 707.4 場所 60 1,077.0	12,600 587,142 644,742 4,800 893,910 1,670 16,350 4,200	短期は1/3を想定  岡口
30 70 830 80 80 670 350	1,500 180 707.4 場所 60 1,077.0 1 1	12,600 587,142 644,742 4,800 893,910 1,670 16,350 4,200	短期は1/3を想定  岡口  目測による漆喰部試算
30 70 830 80 8830 670 3350	1,500 180 707.4 場所 60 1,077.0 1 140	12,600 587,142 644,742 4,800 893,910 1,670 16,350 4,200 920,930	短期は1/3を想定  岡口  目測による漆喰部試算
30 70 830 80 8830 670 3350	1,500 180 707.4 場所 60 1,077.0 1 140	12,600 587,142 644,742 4,800 893,910 1,670 16,350 4,200 920,930 天	短期は1/3を想定  岡口  目測による漆喰部試算
30 70 830 80 830 670 3350 3300	1,500 180 707.4 場所 60 1,077.0 1 1 140 場所	12,600 587,142 644,742 4,800 893,910 1,670 16,350 4,200 920,930 天 90,000	短期は1/3を想定  岡口  目測による漆喰部試算  守下の段
3,3,3,	80	3,000	18,000

植栽	整備	指針	景観整備	場所		全域
伐採	高木(危険木等)	本	20	130	2,600	眺望を阻害する樹木
	高木(外来種)	本	20	20	400	外来種の除去
	高木(枯死木等)	本	20	20	400	ソメイヨシノからヤマザクラへ 更新 適宜実施
			ナ・・ 一声 書こ		0.400	
全土 オナ	<b>数</b>		直接工事費計	18 TC	3,400	
舗装	登順 T	指針	動線整備	場所		全域 
園路	自然色アスファルト	m <sup>‡</sup>	10	9,140	91,400	
	土系舗装	m <sup>‡</sup>	6	440	2,640	
撤去費	舗装撤去	m <sup>†</sup>	5	9,140	45,700	
			直接工事費計		139,740	
天守閣へ <i>0</i>	)誘導方法	指針	動線整備	場所		全域
サイン整備	案内サイン	基	1,500	1	1,500	適宜実施
	誘導サイン	基	800	15	12,000	適宜実施
			直接工事費計	***************************************	13,500	

短期事業費 合計
----------

# 中期

天守閣	の整備	指針	遺構整備	場所		天守閣
展示室整備	展示室内装整備	m <sup>2</sup>	290	1,800	522,000	小田原城資料など
			+++ = #=!		=	
	 		直接工事費計	18 SC	522,000	<u> </u> 本丸
本头[0]	金加	指針	遺構整備	場所		本光
造成整備	嵩上げ分の切り土	m3	30	1,000	30,000	H=3m×3500m <sup>2</sup>
施設整備	旧階段整備	式	2,000	1	2,000	上部撤去し、修復
園地整備	芝生等	m³	5	3,200	16,000	
	柱跡など	箇所	20	40	800	
	外殼線	m	10	400	4,000	
その他	サイン	式	1,500	1	1,500	
E-PARTICULO POR PROPERTO DE PARTICULO POR PA	七福の庭 移設	式	2,000	1	2,000	
	給水場移設				•	別途工事
***************************************		·······i	I 直接工事費計		56.300	
		指針	遺構整備	場所	00,000	二の丸
ווייו	, IX.70	1日本1	这件正開	79171	***************************************	『史跡和歌山城二の丸北辺櫓等
土塀、外構その他工事		式	240,000	1	240,000	復元整備基本計画報告書』 (H10)
			小計		240,000	
			物価変動	×	108.5%	
			直接工事費計		260,400	
吹上口の整備		指針	遺構整備	場所		吹上口
撤去費	わかやま歴史館	m²	70	370	25,900	中期は2/3を想定
調査費		m²	80	700	56.000	吹上口西部
***************************************	発掘調査	m <sup>‡</sup>	80	100	8,000	切り通し部分
			直接工事費計		89,900	
大手門	の補修	指針	遺構整備	場所	33,033	下の丸
建物補修	屋根瓦葺き替え	m <sup>2</sup>	20	56	1,120	整備後50年、H44(2032)に実施予定
	•••••••••••••••••••••••••••••••	i	┃ 直接工事費計		1,120	
追廻門	の補修	指針	遺構整備	場所	,,==	砂の丸
建物補修	屋根瓦葺き替え	m <sup>*</sup>	20	100	2,000	整備後50年、H47(2035)に実施予定
		i	l 直接工事費計		2,000	

天守下の	段の整備	指針	公園施設整備	場所	<b>7</b>	守下の段
撤去費	休憩所、トイレ撤去	m²	30	200	6,000	
	券売所撤去	m <sup>‡</sup>	20	20	400	
			l 直接工事費計		6,400	
管理事務所、バッ	ックヤードの整備	指針	公園施設整備	場所		裏坂下
撤去費	現況事務所の撤去	m <sup>‡</sup>	20	140	2,800	
建物	事務所新設	m³	200	100	20,000	中期は2/3を想定
	目隠しフェンス	m	40	20	800	
MECONO DE CONTROL DE C			l 直接工事費計	***************************************	23,600	

中期事業費 合計	961,720
----------	---------

# 長期、超長期

天守閣	の整備	指針	遺構整備	場所		天守閣
***************************************		2				
建築物	木造復元	m²	4,100	2,000	8,200,000	
			直接工事費計		8,200,000	
表御殿	の復元	指針	遺構整備	場所		二の丸
建築物	木造復元	坪	3,000	341.1	1,023,300	
			**・**   ****		4,000,000	
中奥の	<b>】</b> 、		直接工事費計	18 Er	1,023,300	<u> </u> 二の丸
一	金領	指針	遺構整備	場所		
園地整備	芝生等	m²	1.5	7,500	11.050	
•	園路等撤去、粗造成	111	1.5	7,500	11,250	
平面表示	柱跡など	箇所	20	130	2,600	
ПЩ	外殼線	m	10	610	6.100	
**************************************	•	•				
その他	サイン	式	1,500	1	1,500	
•			直接工事費計		21,450	
櫓群 <i>σ</i>	0復元	指針	遺構整備	場所		二の丸
建物	駿河櫓	坪	8,000	50	400,000	
Æ IX	続き多聞櫓	坪	6,000	75	450,000	『史跡和歌山城二の丸北辺櫓等
***************************************	物見櫓	坪	8,000	60	480,000	復元整備基本計画報告書』
000000000000000000000000000000000000000	御小納戸蔵	坪	7,000	33	231,000	(1110)
	中多聞櫓	坪	7,000	33	231,000	
080000000000000000000000000000000000000	月見櫓	坪	8,000	55	440,000	
			小計		2,232,000	
			物価変動	×	108.5%	
***************************************			直接工事費計	***************************************	2,421,720	
吹上口	の整備	指針	遺構整備	場所		吹上口
堀掘削		m3	1	6,100	6,100	
切り通し部分の整備	石垣復元	m²	830	23.8	19,754	
りが囲しが万の登伽	石坦復兀  盛土	m3	830	73	19,754	
	m			73	Z3Z	
設備施設移設等		式	50,000	1	50,000	
			L 直接工事費計		76,146	
扇の芝	の整備	指針	景観整備	場所	·	扇の芝
移転補償		式	2,000,000	1	2,000,000	
園地整備	芝生	m <sup>*</sup>	1.	3,700	3,700	
— · · · · · · · · · · · · · · · · · · ·		•				
		j	直接工事費計		2,003,700	

御橋廊	京下の補修	指針	遺構整備	場所	=0	D丸、西の丸
建物補修	屋根瓦葺き替え	m²	20	165	3,300	整備後50年、H68(2056)に実施予定
		i	 直接工事費計		3,300	
砂の丸	北部の整備	指針	公園施設整備	場所		砂の丸
園地整備	真砂土舗装	m²	1	840	840	
撤去費	フェンス撤去	m	2	60	120	
	コンクリート撤去	m²	5	840	4,200	
			直接工事費計		5,160	
砂の丸	南部の整備	指針	公園施設整備	場所		砂の丸
樹木伐採	高木	本	20	100	2,000	適宜実施
			L 直接工事費計		2,000	

長期、超長期事業費 合計	13,756,776

### Ⅲ. 今後の課題

今後の和歌山城整備においては、本整備計画に基づき、実施計画を策定し、事業 を推進していくことになる。その際、以下の点が課題になると考えられる。

#### (1) 関連部局との連携

和歌山城の整備は、周辺の都市計画や景観整備と密接に関わるため、和歌山のまちづくりと一体で進める必要がある。また、市内有数の観光地であることから、訪日外国人客の誘致を含め、国際的な視野で観光振興を推進することが求められる。 学校教育や生涯学習の観点からは、歴史学習の場としての活用が期待される。

このように、和歌山城の整備は様々な分野に波及し、市政において重要な位置を 占めている。そのため、関連部局と緊密に連携し、事業を推進することが肝要であ る。

#### (2) 合意形成の重要性

和歌山城は、市民に愛され、親しまれる存在となっている。したがって、事業の実施にあたっては、整備の意義や必要性を周知し、広く市民の理解を得ることが求められる。とりわけ、扇の芝の整備においては地域住民との合意形成が不可欠である。一定のスピード感を持ちつつも、決してあせらず、粘り強く交渉にあたるのが望ましい。

幕末期の姿を基本に整備を図る方針に照らせば、もともと城にはなかった諸施設は城外に移設する必要がある。一方で、これらの施設が市街の中心にあたる城地に求められ、既に一定の歴史を積み重ねている事実も否定できない。動物園やテニスコートは和歌山公園のコミュニティ機能の一端を担っており、護国神社も毎年多くの参拝者を迎えている。こうした現状を踏まえた上で、城らしい景観整備の必要性を丁寧に説明し、整備の方向性を市民と共有することが重要である。

なお、和歌山公園駐車場についても、今後の市街地再開発の動向を注視しながら、 近郊地に移転することが求められる。

#### (3) 管理運営体制の検討

今後、大規模な整備事業を継続して推進していくために、担当部局の増強や関連 部局との連携を含め、推進体制の強化を庁内全体で検討することが必要である。

また、整備の進捗に応じて、管理業務の増加が見込まれることから、一部外部委託も含めた運営体制の効率化が課題となる。既に天守閣等で指定管理者制度を導入しているが、PFI 方式の導入や、ボランティア、NPO 等の多様なマンパワーの活用

も検討すべきである。その際には、市が主体となって全体を差配できるように留意 しなければならない。

## (4)整備事業費の確保

今後の整備には多額の事業費を要することから、財政面での裏づけが重要となる。 既に史跡和歌山城整備基金を創設し、一般からの寄付金を整備に充てているが、今 後は民間資金の導入も視野に入れて事業費の確保にあたることが求められる。また、 整備が完了した施設やエリアの有料化を行い、収益性を高めることも必要となろう。

## (5) 定期的な見直しの必要性

本整備計画は、和歌山城を取り巻く情勢の変化や整備の進捗状況に応じて、今後変更や修正が必要となる可能性がある。そのため、主要な整備事業が終了した時点で全体の計画を見直すなど、柔軟な運用が求められる。

史跡和歌山城整備計画報告書 (平成 28 年度改訂版) 平成 29 (2017) 年 3 月 31 日発行

編集・発行 和歌山市産業まちづくり局観光国際部 和歌山城整備企画課 〒640-8511 和歌山市七番丁 23 番地 Tel. 073-435-1044 Fax. 073-435-1150